

SDGs BOOK

COOP SAPPORO



●環境活動報告 ●組織概要 ●SDGs対比表

見積もり時に費用が確定「トック車検」開始
札幌、岩見沢、黒松内でも開始「スクールランチ」
2025年は留萌、長万部でも開始「スクールランチ」
「ファーストチャイルドボックス」離乳食がトック「無償提供」
「灯油積み立て」「節電のミカタ」新サービス開始 ほか

活動報告
人と人／人と食／人と未来

経営力と協同の
両輪で切り拓く
北海道の未来

特集2 対談
生活協同組合
コープさっぽろ
有識者理事
堂前宣夫氏 × 大見英明
生活協同組合
コープさっぽろ
理事長

特集1 60年の答え、61年目の問い
寄り添う、
くらしに。
宅配トックと店舗事業の挑戦
宅配トック20年の到達点
店舗の生鮮強化

2026

つなぐ
COOP
SAPPORO

2025年度 受賞一覧

コープさっぽろおよび関連会社の
主な2025年度受賞概要です。



10月28日 主催:北海道

令和7年度
北海道文化奨励賞



資源回収の収益で「コープ子育て支援基金」を創設。その基金を基に「えほんがトック」や「えほんワクワクキャラバン」などを通して北海道の子育て支援と絵本文化の振興に貢献したことを評価。

10月10日 主催:ウイズワークス株式会社

社内報アワード2025
ゴールド賞



読者参加型のアワード企画や多彩な構成力、丁寧でユーモアあふれる編集、豊かな表現力、登場者との信頼関係が伝わる写真など温かな誌面づくりが完成度の高い社内報と「なび」が評価。

10月28日 主催:一般社団法人
日本地域コンテンツ振興協会

日本地域
コンテンツ大賞2025
企業誌部門最優秀賞



Cho-co-tto発行63万部、SNSフォロワー11万人超と圧倒的な発信力で生産から食卓まで「食」の魅力を網羅的に伝え、リアルとデジタルを融合した新しい地域発信モデルを評価。

11月4日 主催:日本食糧新聞社

第58回食品産業功労賞
流通・情報部門



理事長の大見英明が長年、生活協同組合の枠を超え地域全体の発展に尽力。持続可能な流通体制の確立、地域経済の活性化、消費者と生産者をつなぐ仕組みづくりに取り組んだ実績を評価。

12月23日 主催:国土交通省

グリーン物流
パートナーシップ会議
特別賞



関連会社である北海道ロジサービス株式会社が、「物流2024年問題」「労働力不足」「コストの上昇」「環境負荷軽減」といった課題を関係者と連携し、持続可能な物流を実現したことを評価。

COOP
CYCL
コープサイクル

北海道の暮らしを豊かに
するコープさっぽろの取
り組みがもっとわかる。
「北海道で生きることを
誇りと喜びにする」ため
のプラットフォーム



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットですべての参加国が合意し採択された、2030年に向けた世界共通の目標です。すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として17のゴールが設定されています。

コープさっぽろSDGs BOOKについて(編集方針)

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」、2007年から「CSRレポート」の発行を続け、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示を続けてきました。現在、2030年に向けて世界的にSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが加速しています。コープさっぽろは北海道においてSDGsを推進することを目標としており、「事業」「組合員活動」の両面でSDGs実現に向けた課題解決を推し進めています。その活動の一部ではありますがここにお伝えし、皆さまにも持続可能な社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

●報告対象期間/
2025年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2025年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2026年3月20日現在のものです。

●発行年月/2026年5月発行
次回は2027年5月の発行を予定しています。

●ホームページ/<https://www.sapporo.coop/>
(当該情報に関するホームページでの公開は、2026年6月を予定しています)

●お問合せ先/生活協同組合コープさっぽろ 組織本部 広報部
〒063-8501札幌市西区発寒11条5丁目10-1 TEL 050-1741-5516



INDEX

- 02 | コープさっぽろの伝言(新理念体系)
- 04 | コープさっぽろと社会貢献 ～本冊子を読む前に～

特集1 60年の答え、61年目の問い 寄り添う、くらしに。宅配トドックと店舗事業の挑戦

- 07 | CASE1 宅配トドック20年の到達点
- 11 | CASE2 店舗の生鮮強化

特集2 対談 経営力と協同の両輪で切り拓く北海道の未来

- 12 | 堂前宣夫氏×大見英明対談

16 | コープさっぽろ事業MAP

人と人 活動報告

- 18 | ひとり親の高校生への「育英奨学金」
- 18 | 4年間で100万円給付「大学生育英奨学金」
- 18 | 職員の奨学金返済を補助「職員奨学金返済支援制度」
- 19 | コープさっぽろ×リリアアブル児童養護施設へ文具進呈
- 19 | 見積もり時に費用が確定「トドック車検」開始
- 19 | 「コープの家族葬」釧路に3号店オープン
- 20 | 被災地の子どもたちへ届け「ミャンマー地震 緊急募金」
- 20 | 「大分県大分市佐賀関の大規模火災 災害支援募金」
- 20 | 児童養護施設へ食品提供「トドックフードバンク」
- 20 | 施設で子どもたちと調理実習「トドックフードキャラバン」
- 21 | 札幌、岩見沢、黒松内で「巡回型健康診断」
- 21 | 学生や組合員さんと連携「コープトラベル」の企画
- 22 | 働ける環境を整えて「障がい者雇用」8%超え
- 22 | 「くぼらだんだんアート2025北海道展覧会」開催
- 22 | バックヤードツアーも実施「ホッキョクグマ応援プロジェクト」
- 22 | 物価高騰によるエサ代に悩む「動物園へ規格外フルーツ」寄贈

人と食 活動報告

- 23 | 道内8地区で開催「食べる・たいせつフェスティバル2025」
- 23 | 2025年は留萌・長万部でも開始「スクールランチ」
- 24 | つながり新たな価値に「コープさっぽろ農業賞」
- 24 | 北海道発グリーンツーリズム「畑でレストラン」
- 24 | 地元野菜の直売コーナー「ご近所やさい」
- 24 | 毎日違う食事をお届け「夕食宅配サービス」
- 25 | 夏休み&冬休みに昼食を提供「児童会館ランチ」エリア拡大
- 25 | 「高校生チャレンジグルメコンテスト」
- 25 | 高校生が食と農を学ぶ「アニマドーレ」
- 26 | 軒先にスーパーがやってくる!?移動販売車「おまかせ便カケル」
- 26 | 組合員さんと一緒につくる商品開発「プロエコ」

人と未来 活動報告

- 27 | 体験を通して海洋汚染を考える「海のクリーンアップ大作戦!」
- 27 | 街から海をきれいにしよう「街のクリーンアップ大作戦!」
- 27 | レバンガ北海道と包括連携協定を締結
- 28 | 得た利益は100%子育てに「エコセンター」
- 28 | 「ファーストチャイルドボックス」「離乳食がトドック」無償提供
- 29 | 「えほんがトドック」「えほんわくわくキャラバン」
- 29 | 全国に聞いた“好きな絵本”「みんなのよみきかせ絵本大賞」
- 30 | 中高生を被爆地“ヒロシマ”へ「平和スタディツアー」
- 30 | 「コープの学童トドックキッズクラブのっぽろ」新築移転
- 30 | 道内各地の新1年生へ「ランドセルカバー贈呈」
- 30 | 全道に親子のあそび場「トドックステーション」
- 31 | 東川町の資源米に切り替え「ライスレジ[®]袋」
- 31 | 最新事例から学ぶ「SDGs研究会」
- 31 | 買ってカーボンオフセット「北海道の森に海に乾杯!」
- 31 | 対象商品購入で寄付「霧多布の自然を守ろう!」
- 32 | 「未来の森プロジェクト」Fの森フェスティバル開催
- 32 | 「灯油積み立て」「節電のミカタ」新サービス開始

33 | おかげさまで2025年、 コープさっぽろは60周年を迎えました。 (記念企画紹介)

34 | 環境活動報告

36 | コープさっぽろの組織概要

39 | SDGs対比表

40 | 2025年度 受賞一覧



コープさっぽろの伝言(新理念体系)

コープさっぽろの合い言葉
つなぐ

コープさっぽろの志
北海道の人たちと助け合える仕組みをつくり、実行する

コープさっぽろの理念
北海道で生きることを誇りと喜びにする

コープさっぽろの使命
「安心」と「革新」

各事業の考え方

「店舗」	いのちの基本である「食」を大切にする
「宅配トドック」	笑顔をとどけ、笑顔をいただく
「移動販売車カケル」	どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く
「社会給食」	健康と成長を見つめていく
「エネルギー」	北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する
「水工場」	北海道のかけがえのない資産を預かっている
「共済」	助けあいの心をひとつにする
「フリエ」	家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする
「トラベル」	人生という旅をさらに豊かにする
「生活文化事業」	学ぶ喜びを生涯の楽しみにする
「食品工場」	食べる人を思い浮かべながらつくる
「物流」	心待ちにしている人がいることを忘れない
「健診事業」	健康診断を日常の習慣にする
「学童保育」	「ただいま!」と帰れる居場所をつくる
「障がい者雇用」	新しい発想をもたらす仲間たちを歓迎する
「リサイクル」	組合員さんの資源を、子育てに活かしていく
「開発・建設」	暮らしを支える拠点を支える
「学校事業」	北海道を愛する外国人を増やす
「地域政策」	地域の困りごとを、コープさっぽろの課題にする

コープさっぽろが大切にすること

わかちあう まなびあう ささえあう ふれあう おもいあう たたえあう たすけあう

コープさっぽろは、「北海道」の生活協同組合です。

出資者は「北海道」に住む組合員。北海道の暮らしをより良くすることがコープさっぽろの存在理由です。

たとえば…

組合員数209万7633人（一般世帯247万世帯の約85%）
※2020年国勢調査より算出

組織内物流を持つ（北海道ロジサービス）

こうした強味を生かして、人（道民）のためになる事業を運営し、得た剰余（利益）は組合員さんへ還元＝社会貢献していく仕組みです。



- 〈事業MAP〉16-17ページで、どのような事業を行っているのかを一覧にしています。
- 〈コープさっぽろの組織概要〉36-38ページにコープさっぽろの基本情報・組合員動態・事業所数と形態を載せています。

SDGsBOOK活動報告は、コープさっぽろが1年間に行った社会貢献の取り組みを抜粋して紹介した冊子です。



学費高騰が少子化・人口減の原因に ▶▶▶ 4年間で100万円給付 「大学生育英奨学金」

家庭の経済的事情で進学を断念せざるを得ない子どもたちが一人でも多く進学できるよう、2017年に「大学生育英奨学金制度」を創設しました。コープさっぽろで働く大学生に、返済不要の奨学金を年間25万円、最長4年間給付しています。累計対象者は2000人を超え、支援金額も5億円を超えました。



2025年度の利用者・支援額

289人・7225万円
（累計2299人・5億7475万円／2017年～）

SDGsのどれに貢献しているのか



どのような課題に基づいた取り組みか

取り組み内容

取り組みの規模・貢献度の目安となる数字

お店と宅配を
やっているところ
でしょう？

どうしてこんなにいっぱい社会貢献しているの？

利用するのは
「客」じゃなくて「組合員」？

会社とは違うの？

コープさっぽろは、そもそも「社会貢献をするために存在している組織」です。

生活協同組合 = 相互扶助の追求



生協の共同所有者に

みんなで
出資する
（加入）

*相互扶助とは…
社会組織の構成員同士が互いに助け合うこと。



生活協同組合は、「社会貢献」をすることで出資者（＝組合員）が認めてくれます。

出資者の視点 「それはどれだけ人のためになるか？」

出資者（＝組合員）がお店や宅配などを利用することで得た剰余（利益）を社会貢献に寄与することで、出資者に還元していくという仕組みが成り立っています。

コープさっぽろ
「はじめての方へ」はこちら



生活協同組合について
より詳しく知りたい方は
日本生協連のHP「生協って？」へ



生活協同組合は「会社」ではありません。

「会社」とは、事業を行うことで「利益の追求」をします。株主へ利益を還元する、また納税することで貢献しています。出資者である株主は「それはどれだけ会社の利益になるか？」という視点で経営を見ます。社会貢献はあくまで経営を圧迫しない範囲でなければ成り立ちません。

コープさっぽろと社会貢献
この冊子を読む前に

寄り添う、くらしで。

宅配トドックと 店舗事業の挑戦

コープさっぽろは創立以来
組合員さん一人ひとりの声に耳を傾け
地域の課題を出発点に事業を生み出し
困りごとを解く答えを探してきました。
その姿勢は60年たった現在も変わりません。
2026年に20周年を迎える宅配トドックと
かつてない物価高に立ち向かう店舗事業。
両輪となる事業の「いま」を丁寧に見つめ
これからのくらしを、一緒に考えます。



協同購入から宅配トドックへ 地域課題に向き合い 進化を続けた20年

2026年、コープ宅配システムトドック(宅配トドック)は20周年の節目を迎えます。

そのルーツは1971年に始まった共同購入にさかのぼります。組合員さんたちが「班」を作り、商品をまとめて購入するスタイルは班配とも呼ばれました(のちに協同購入へ改称)。時代が変わり、女性の社会進出が進むと、集まって商品を分け合う手間のかからない戸別配達(戸配)が登場。戸配は有料にもかかわらず、



宅配トドックの原点は55年前に始まった共同購入にある(写真は1976年頃)

ならず、班配の供給を上回るまでに成長します。そこで06年10月16日、班配と戸配を統合し、配送料を一律有料化した宅配トドックとして再出発しました。宅配トドックは、時代の声や北海道が抱える課題にしっかりと耳を傾けながら進化を続けてきました。北海道洞爺湖サミットで環境意識が高まった08年には廃食用油を燃料とするBDFトラックを導入。09年からは帰りの空きスペースを活用した古紙・段ボールなどの資源回収を行っています。高齢者の孤立が社会問題化した11年には札幌市と見守り協定を締結。道内市町村との連携も、その後どんどん広がっています。

地方から商店が撤退し、買い物困難者問題がクローズアップされるなか、宅配トドックは、どこに住んでも食料品の買い物に困らない「食のインフラ」の役割を担ってきました。宅配トドックの歩みは、北海道の暮らしの変化とともにあったといえるでしょう。

〈宅配トドックの歩み〉

1971年 10月	共同購入(班配)開始。当初は月次(月1回)配送
1973年 6月	配送拠点「市民生活協同購入センター」を札幌市白石区に開設
1982年	OCR対応の注文用紙を採用
1984年 3月	月次供給を廃止、週次供給に一本化。協同購入に改称
1997年 6月	戸別配達「らくらくメイト」便開始
2006年 10月	「コープ宅配システムトドック」始動。10月30日配達開始
2008年 1月	宅配コールセンター・電話受付センター全面稼働
2009年 7月	バイオディーゼル燃料(BDF)使用トラック走行開始
2010年 9月	トドックで古新聞・段ボール・発泡トレーの回収を開始
2011年 2月	札幌市と高齢者の見守り活動連携協定締結
2012年 12月	配達業務の自動化開始(北見・釧路)
2013年 1月	発注者と配達先が異なる「見守りトドック」スタート
2015年 1月	トドック・コールセンター開設
2月	トドックで古着・古布回収開始
5月	AED搭載の宅配トドック車両走行開始
6月	宅配トドックと店舗利用のポイント統合
10月	トドックあんしんサポーター訪問開始
5月	ネット注文サイト「eトドック」サービス開始
5月	「65歳以上」「3歳未満」がいる家庭への無料配達開始
5月	札幌中央センター内にトドックステーション開設
5月	トドックフードバンク開始
2016年 4月	道内179市町村を巡り感謝を伝える「トドックスマイルキャラバン for 179」開始(11月15日)
5月	配達情報端末「ビスキー」全センター運用
5月	宅配トドックが「第9回日本マーケティング大賞」地域賞を受賞
12月	エコセンター敷地内にトドックエコステーション開設
2017年 5月	宅配物流システム完全自動化
10月	自動倉庫システム「オートストア」導入
2018年 8月	北海道胆振東部地震発生、トラックアウト(全域停電)の中で配達実施
9月	「トドックエコステーション2」あまり資料室開所
11月	スマホ用注文アプリ「トドックアプリ」リリース
2019年 8月	新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要で宅配利用
2020年 5月	高が前年比140%超
11月	ネット注文サイト「トドックサイト」リリース(12月19日eトドックサービス終了)
2021年 11月	「トドックアプリ」リニューアル
2022年 3月	トドックで「無印良品」供給開始
2023年 3月	「コープさっぽろファンBOOK」発売
3月	漫画「トドック配達日記なき風をとどけてちよっと」連載開始

宅配トドック20年の到達点



宅配事業本部 本部長 豊田 真人さん

函館市出身。2003年、コープさっぽろ入協。以来、松岡さんと同じく宅配一筋。現場経験15年、その後、地区長を6年間務める。24年運営部長補佐、管理部長を経て、25年3月より現職。

北海道の食卓を、どこまで守れるか。宅配トックはいま、そんな問いと向き合っています。時代とともに変わり続けてきたトックの「現在地」と「これから」について、宅配事業を率いる豊田真人さんと松岡将文さんに、じっくりと語ってもらいました。

宅配運営部 運営部長 松岡 将文さん



音更町出身。2004年、コープ十勝入協(07年コープさっぽろと統合)。以来、宅配一筋で現場経験16年。21年運営部長補佐、22年より現職。趣味は仕事(!?)。座右の銘は、武田信玄の言葉とされる「正範語録」。

どこに住んでいても、同じ笑顔の食卓を。

届けるだけじゃない
「地域」の担当者

— 宅配トックは現在、49万世帯近くの方に利用されています。支持される理由はどこにあるのでしょうか。

豊田 ローカルのスーパーや商店が減るなか、離島を含む全道全域で同じサービスを提供し続けるというのは、トックの強みであり、使命でもあります。ネットスーパーや他の配達事業者との一番の違いは、毎週同じ担当者が訪問する点です。週1回、顔を合わせる。親戚よりも会う回数が多いかもしれません。だから自然と、組合員さんとの距離が縮まります。



松岡 見守り活動が成り立つのも、毎週会うので小さな変化に気づくことができるからです。

豊田 だからこそ担当者を「配達担当」ではなく「地域担当」と呼んでいます。配達にとどまらず、地域をまるごと受け持つ。そんな意味を込めています。

会えなくても
話ができる仕組みを

— この20年で、肌で感じる変化はありますか？

松岡 留守のご家庭が増えていきます。現在の置き配率は56%で、毎年2%ずつ上昇しています。共働き世帯の増加やコロナ禍での置き配の普及が背景にあるのでしょう。「顧客接点力」が強みのトックにとって、「会えない」組合員さんが増えているのは正直、悩ましい現実です。そこで新たに「スマート置き配」(詳しくはP10)を始めました。

豊田 この傾向は止められないと思っています。だったら、直接会わなくてもコミュニケーション

が取れる仕組みが必要で。2025年はアプリ上で組合員さんからの問合せを受けられる「連絡ノート」(詳しくはP10)を導入し、26年はこちらから連絡できるアウトバウンド機能も追加する予定です。

— 例えば、どんな連絡をするのでしょうか。

松岡 さまざまです。「雪で到着が遅れます」「来週はこの商品がお買い得です」といった、個別のこまやかな情報をアプリ上でやりとりできるようにします。

豊田 現在、宅配トックは主に60〜70代の方々に支えられています。そうした組合員さんに使い続けてもらいながら、50代以下の方にもトックファンになしてもらわなければ、事業は長続きしません。子育て支援に力を入れているのも、そのきっかけにしたいからです。

松岡 25年は育児中の組合員さん向けに「離乳食がトック」(詳しくはP28)を始めました。また、発信力のある組合員さんに「公式アンバサダー」(詳しく

はP10)になってもいい、トックの便利な使い方や商品情報を組合員目線で紹介してもらう仕組みも作りました。

デジタルと人の力で
もっと便利なトックへ

— 20年たったいまも、新しいサービスが次々と生まれているんですね。

豊田 まだまだ改善すべき点は多いです。例えば、現在取り組んでいるのが新規加入から初回配達までのリードタイム短縮です。現状、加入から注文開始までは1週間、最初のお届けは2週間後です。一般的なECサイトのようにすぐ注文できないため、WEB登録者の23%が注文前に離脱しています。これを変えようとしています。

— どうやって解決するのでしょうか？

松岡 AIを活用します。WEBで新規加入を受け付けた瞬間にAIが配達曜日・時間を割り当て、その場で「お届け日」を確定します。そうすることですぐに注文が可能になります。

松岡 AIによる配送ルート最適化は、既に数年前から取り組んできました。いまは宅配トラックに搭載しているドライブレコーダーの点検を、AIで自動化できないか検討中です。将来的には、地域担当者が荷台の中で商品を仕分ける作業もAIを活用して自動化できるようになったらいいですね。

— 利便性だけではなく、働きやすさの改善にも、デジタル技術が役立っているんですね。

松岡 人手不足も宅配トックにとって大きな課題です。いまがなばつてくれている地域担当者の給与体系を整え、働きがいが高めることはもちろん、元気な高齢者や外国人の力もお借りしながら、担い手を広げていきたいと考えています。

— 宅配トックのこれからについて教えてください。

豊田 はい。まずは原点に立ち返り、商品の魅力を高めることに注力します。北海道の良質な商品や生産者の思いを組合員さんに届け続けること。そして買い求めやすい価格帯の商品を充実させ、組合員さんの暮らしを守ることに。この二つを愚直に追い



● 宅配トック20周年企画(予定)

日本全国47都道府県
ありがとうキャラバン

「トックガチャ」を
店舗やトドステに設置

ギネスに挑戦!
折り紙でトック
モザイクアート

宅配トックセンター祭りで
食べフェス開催

「トックの日(10月16日)」を
記念した感謝特典

宅配トック利用者数

48万6567世帯

(シェア率19.6%)

※2026年3月20日現在、シェア率は北海道の一般世帯に対する利用者の割合

● トックアプリのあゆみ

- 2019年8月15日
トックアプリver.1リリース
- 2019年10月
リピ買い、商品検索機能追加
- 2020年3月
WEBカタログ注文や定期便変更可能に
- 2020年10月
ログイン方法変更で安全性向上
- 2021年11月21日
大幅リニューアルでちょこっとカード利用可能に



進化するトックアプリ
スマホ用注文アプリ「トックアプリ」がリリースされたのは2019年8月。当初はカタログを見ながら注文番号を入力するシンプルなスタイルでした。その後、リピ買いや商品検索機能を加え、2021年11月にほぼ現在の形になります。いまでは30〜50代の半数以上がアプリを利用するなど、着実に浸透。「カタログをめくったら思わぬ商品に出会えた」そんなワクワク感をアプリでも届けられるよう、組合員さんの声を聞きながら進化は続きます。



長引く物価高、高まる生活防衛意識 ▶▶▶

店舗の生鮮強化



ほうれん草99円など、市場で買い付けた旬の野菜を日替わりで「2桁価格」にて提供

世界的な原材料価格の高騰に加え、円安や人件費・物流費の上昇が重なり、食料品の価格が一段と上がっています。総務省によれば、生活費全体に占める食費の割合を示すエンゲル係数は2025年に28.6%となり、1981年以来44年ぶりの高水準に達しました。節約志向の高まりで、ディスカウント型スーパーの売上が伸びる一方、コープさっぽろの店舗事業は苦戦を強いられました。

「家計にもやさしいお店」へ
止まらない食品値上げ
エンゲル係数高水準に

本州スーパーに学び
生鮮強化型のお店へ

コープさっぽろは従来、「おいしいお店」を掲げ、生鮮を強みとしてきました。しかし近年は組合員さんからも「高い」との声が多く聞かれるようになったと店舗本部の坂井誠次副本部長は語ります。そこで本州のスーパーマーケットを視察し、単なる安売りではなく、「八百屋、魚屋、肉屋の原点に立ち返ることが大切」と実感。生鮮強化を図り、生鮮改革タスクチームを立ち上げました。

専門性を発揮して
価格以上の価値を

コンセプトは「生鮮の専門性を最大強化し、価格以上の価値を届ける」店。方針は二つ。一つは「調達や提供単位を工夫して鮮度の良いものをお値打ち価格で提供すること。もう一つは「どんな方にも満足いただける専門店ならではの商品を提供すること

農業賞を受賞した大野ファーム(芽室町)の和牛を1頭買い



惣菜では「たまごたっぷりサンド」や「フライドチキンサンド」を199円で展開

です。例えば野菜や魚は市場で「その日一番」のものを買い付け、お値打ち価格であふれんばかりに並べます。一方で、店内で手作りの「トヨヒコ」や「魚屋のフライ」なども展開し、「食いしん坊の期待に応えるお店」を目指します。特に力を入れるのは肉で、鶏もも肉などを手頃に出す傍ら、和牛1頭買いや、ローストビーフなどの惣菜も強化し、「わざわざ行きたくなる店」を目指します。その試みは既に始まっており、26年度は二十四軒店やソシア店など24店舗での実施を計画。単なる安売りではなく、組合員さん目線で価格と同時に価値を訴求し、現在のニーズに対応した「おいしいお店」の進化版と位置付けています。

試食会に参加した組合員さんの声

- 普段魚はあまり食べないけれど、「魚屋のフライ」のほっけフライはおいしいまた食べたい。
- オムライスにデミグラスとケチャップ味があり、どちらもおいしい。500円以内がうれしい♪
- 「本気のまぐろ丼」にはハラモという部位を使っているそう。脂たっぷり!これで1000円以下!? ● 新鮮な果物を使った「トヨヒコ」は、生クリームにこだわっていて、ひと味違うと感じました。

お問合せ ▶ TEL 050・1751・7015
生鮮改革タスクチーム 月～金10:00～17:00

■ 2025年度にオープン/リニューアルした店舗

2025年度宅配トドックの主な取り組み

留守宅への配達効率化 ▶▶▶

不在でも置き配が可能に「スマート置き配」導入

配達効率化のため、不動産管理向けアプリ開発を手がけるライナフ(東京)の「スマート置き配」を2025年6月1日に導入。認証を受けた配達員が専用アプリで解錠し、指定場所に商品をお届けできるようになりました。雁来センター(札幌市東区)の配達エリアからサービスを開始。今後も順次、対象エリアを拡大予定です。



2025年度スマート置き配使用施設・置き配率

43軒・56%

若年層への利用拡大 ▶▶▶

SNSでトドック愛をさげぶ「公式アンバサダー」始動

2025年5月20日、トドック公式アンバサダーの第1回就任式が行われ、18人が就任しました。ミッションは、SNSやブログ、YouTubeで毎月3回以上、宅配トドックに関する投稿をすること。「畑でレストラン」や「食べる・たいせつフェスティバル」などにも参加し、組合員さん目線で魅力を発信しています。



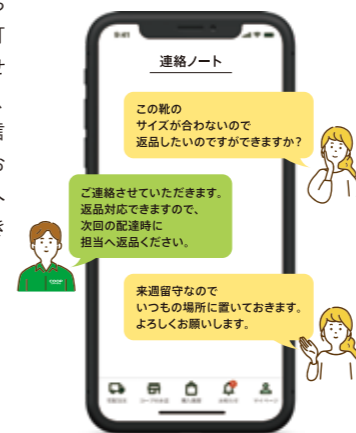
2025年度投稿数

555本 (広告費用換算: 2568万円)

双方向のコミュニケーション ▶▶▶

アプリで何でも問合せ「連絡ノート」が誕生

2025年5月19日、トドックアプリに新しいコミュニケーションツール「連絡ノート」機能が追加されました。届いた商品のことや各種手続きはもちろん、店舗・電力・灯油など幅広い問合せをいつでも送信でき、後日担当者から返信が届きます。従来どおり、コールセンターへの問合せも引き続き利用できます。



2025年度問合せ件数

7万4380件

トドステ認知度向上と利用拡大 ▶▶▶

「トドックステーションスタンプラリー」開催

店舗や宅配センターに設置された全道32カ所のトドックステーションを対象に、2025年4月から1年間、スタンプラリーを実施。スタンプ5個でプレゼントがもらえるなど、気軽に参加できる取り組みです。回遊を促してトドステへの親しみを育むとともに、組合員さん同士の「つながり」を深める場づくりを目指します。



スタンプラリー参加総数

1400件

経営力と協同の 両輪で切り拓く 北海道の未来

長引く物価高のなか
「暮らしを支える」生協の役割が
問い直されています。

事業として成り立たせながら
どう北海道に貢献できるのか。
良品計画で「新しい経営」を掲げた
堂前宣夫さんとともに
コープさっぽろのこれからを考えます。

生活協同組合
コープさっぽろ有識者理事
堂前宣夫
どうまえ のぶお

生活協同組合
コープさっぽろ理事長
大見英明
おおみ ひであき



協業を経て 有識者理事に

—お二人の出会いとは？

堂前 私が良品計画の専務取締役だった頃です。北海道でのeコマース展開を検討するなか、宅配ドックの仕組みに興味を持ちました。ドックは道内の隅々まで週5日、食料品を届ける物流網を築き、そのコスト構造は「置きっぱなしでも大丈夫」という組合員さんとの強い信頼関係に支えられています。すごい仕組みだなと思います。「無印良品の商品も一緒に届けられないか」「コープの隣に無印良品を出店できないか」と相談しました。

—2021年11月にやまはな店2階に無印良品を出店し、翌年3月から宅配ドックで無印良品の取り扱いが始まりました。その年の6月には、堂前さんがコープさっぽろの有識者理事※、いわゆる社外取締役に就任されています。

大見 私からお願いしました。良品計画の株主総会をオ

主義人本主義 という共通点

オンラインで見ていると、堂前さんが「これからは公益人本主義経営を追求するんだ」とおっしゃいました。ステークホルダーが出資や購入を通じて経営に参画し、それが配当や割引で還元される、というわけですね。それはうちと一緒じゃないか。しかも堂前さんは海外事業にも詳しい。世界を相手に小売業を営む、その知見をぜひお借りしたいと思

堂前 私としても学びの多い機会だと思ひ、ありがたきお引き受けしました。当時、良品計画は「第二創業」を掲げ、単なる小売業から、生活必需品を通じて地域の生活

インフラになることを志していました。そうしたなかで生活協同組合は、組合員さんがお客さまでありながら出資者であり、顧客という立場を超えて「ジブンゴト」として組織にコミットしています。さらに、地域社会を暮らしやすくする活動にも取り組んでいる。そういうことを良品計画でもやりたいと思っていたので、コープさっぽろで得た学びを、無印良品を通じて全国へ広げていきたいと考えました。

公益人本主義経営は 「社会貢献」利益

—公益人本主義経営は、一般的な株式会社との経営とは何が異なるのでしょうか。

堂前 世の中には、会社を金融商品とみなし、投資や収益を最優先する「金融資本主義経営」という考え方がありますが、そこでは利益が中心で、事業は利益を得るための道具（手段）です。一方、公益人本主義経営は、事業の目的を「世の中に対する価値を

最大化すること」に置きま

堂前 宣夫さん



1969年山口県生まれ。93年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。98年ファーストリテイリング入社。2019年良品計画入社。21年代表取締役社長、24年11月取締役会長就任(25年11月退任)。22年6月よりコープさっぽろ有識者理事。

大見 難しいのは、例えば食品小売の場合、北海道にも大きなコンペティター(競合)が二つあり、その競争をしのぎながら、どう事業のバランス

を取るかなんです。やはり、価格以上の価値を提供しない限りは、組合員さんもメリットを感じられず、結果することの意味を失ってしまいます。だからこそ私たちは、他社との差異化を図りつつ、公共性の高い商品や取り組みを、組合員さんのニーズをくみ取りながら具現化することが、非常に重要だと感じています。





2026年は生鮮強化で暮らしを支えるお店へ

—25年はまさに「難しさ」に直面した年でした。

大見 22年後半から続く物価上昇で、特に年金受給者の実質支給額が目減りし、節約志向が強まりました。25年上期には、その流れが特に店舗事業において顕在化しました。私たちは店舗事業の回復に向けた対策に25年後半から着手し、26年1月には野菜の「2桁価格」を打ち出すなど価格面のメリットを最大化した結果、ようやく競合に引けを取らない水準まで

供給高(売上)が回復しました。やはり組合員さんが、商品の価格に対して非常に敏感になっていると痛感しています。

—それを踏まえ、26年度は店舗の生鮮強化に取り組むとのことですね。

大見 競合だけでなく、ドラッグストアの動向も注視しなければなりません。近年、ドラッグストアは来店頻度を高めるために食料品の取り扱いを増やし、競争力のある強いセールを打つことで、近隣の商圏から利用者を獲得しています。そうすると、単

声なき声に向き合う

引き続き大切だろうと思っ
ています。

堂前 厳しいのは、コープさっぽろだけではありませ
ん。近年はロピアやトライア
ルなどのディスカウンターが
道内での出店を加速し、コー
プさっぽろを含む地域の小売
業に影響を与えています。だ
からこそ、食品スーパーマー
ケットとしての基礎力を引き
上げることが大切です。仮に
組合員さんの支えがなかった
としても、競合に勝てる力を
つけることが急務です。

大見 参考になる事例とし
て、フィンランドのSグルー
プ(SOK)があります。人口
の半分が組合員という巨大
コープです。フィンランドで
14年頃に物価高が起きた際、
Sグループは価格を下げる
取り組みで組合員さんから
の支持を得て、大きく成長し
ました。ですからコープさっ
ぽろも、道民の暮らしの下支
えをする組織となり、組合員
さんからの支持を得ること
で利用が増えていく。そうし
た好循環をつくっていきたい
と考えています。

宅配トドック20周年 改めて問われる価値

—26年、宅配トドックは誕生
20年を迎えます。経営におけ
る宅配事業の位置づけについ
てお聞かせください。

大見 1998年の経営破
綻の際、店舗事業は大きく
赤字でしたが、当時の協同
購入は黒字を維持していま
した。経営再建にあたって
は、店舗事業の立て直しと
並行して、宅配事業を経営
の柱に育てる必要がありま
した。そこで06年に戸配に一
本化し、名前も「コープ宅配
システム トドック」に変えま
した。トドックの強みは、週
1回の配送でありながら一
度に10点以上まとめて届け
る効率の良さにあります。18
年に自動倉庫型ピッキング
システム「オートストア」を
導入し、取扱品目を400
0品目から2万品目に拡大
することができました。コロ
ナ禍では巣ごもり需要で利
用が急増するなど、宅配事
業の存在価値が改めて示さ
れました。

—堂前さんはトドックのど
こに強みを感じますか？

堂前 週1回配送でコストを
抑えつつ、それでも不便さを
感じさせない「ちょうどよさ」
です。世の中にはクリックした
ら数時間以内に本が届くと
いった即日配達サービスも
増えています。すぐ届く方が
ありがたい気はしますが、すべ
ての商品が今日届く必要はな
く、そのために過剰なコスト
をかけるのは合理的ではあり
ません。トドックの仕組みは、
需要とコストのバランスを的
確にとらえています。

—今後の展開は？

大見 現在は約49万世帯、
北海道の世帯全体の約20%
に利用いただいており、地域
によってはシェアが40%を超

えます。人口減少や商業環境
の厳しい地域ではトドックが
食生活の最後のライフライン
になっており、特に郡部には
まだ伸びしろがあります。引
き続き利用世帯の拡大を目
指します。

—利用拡大のため、堂前さ
んはどこに力を入れたらよ
いとお考えでしょうか？

堂前 二点あります。第一に
デジタル利便性の向上です。
これから需要が見込まれる50
代・60代はデジタルに対する
抵抗感が低いため、さらに使
いやすくする必要があります。
第二に商品力・販売力の強
化です。組合員さんの年齢構
成が移り変わるなかで、「本当
にちょうどいい」商品を開発
し、地元の生産者に向き合い、
地元の生活者に寄り添う、
コープさっぽろならではのも
のづくりが求められます。

できることは まだまだある

大見 理事会でも堂前さん
にご指摘いただいている通
り、コープさっぽろが道内の
生産者や製造工場をつなぎ、
商品開発を活性化させ、北
海道の第一次産業の魅力を

道外、あるいは海外へ発信す
るような体制を、今後は強化
したいと考えています。

資本主義の経営力と 協同組合の考え方を

—コープさっぽろは25年に
創立60周年を迎えました。
人間でいえば還暦です。これ
からの10年、その先の展望を
教えてください。

大見 現在、店舗の供給高
は約2000億円、宅配は約
1200億円です。そして関
連会社がこの間、ほとんど売
上を伸ばし、900億円近い
規模まで来ています。ですか
ら今後は関連会社の中から、

店舗・宅配に続く「第3・第4
の柱」を築くことがテーマに
なります。具体的にはエネル
ギーや物流事業が有望分野
です。給食事業にも大きな可
能性があります。私たちのイ
ンフラを地域に生かし、行政
の代替機能を果たしながら、
北海道への貢献を深めていき
たいと思います。

堂前 そのためにカギとなる
のは職員の皆さんですね。組
織全体として「北海道をよく
したい」という共通の志を持
ちつつ、職員一人ひとりが自
分の夢やビジョンを描き、そ
れを実現していく。そのよう
な組織体になっていくのが、
きつといいんだらうと思いま

す。また、北海道に住む組合
員さんが、自分をコープさっ
ぽろを構成する「職員」と
感じ、誇りを持って運営に関
わり、サービスを享受する。
その循環が、住み心地のよい
社会へと導くのでしょうか。こ
れこそが公益人本主義の究
極的な形ではないかと考え
ます。資本主義的な経営力
と、協同組合の考え方。これ
を両立させることがますます
重要になります。

大見 ありがとうございます
です。これからも、引き続きよ
ろしくお願ひします

※有識者理事…コープさっぽろの経営
に関して専門的な見地から提言を行
い、健全なガバナンス体制を支える
役割を担っています。堂前さんのほかに
早稲田大学ビジネススクール教授の入
山章栄さん、株式会社QO代表取締役
社長の林千晶さんが有識者理事を
務めています(2026年4月現在)

今回の対談の様子は動画で配信しています

ホッキョクグマ応援プロジェクト バックヤードツアー参加人数(親子)

夏 **219人** 冬 **120人**

トドックフードキャラバン

児童養護施設へ食育を届けるキャラバン

2025年度訪問数 **8回**
(累計81回／2016年～)

2025年度参加人数 **85人**
(累計990人／2016年～)

コープトラベル(旅行業)

年商 **24億3000万円**

店舗数5店舗
(札幌2・苫小牧1・旭川1・函館1店舗)

店舗

110店舗
事業高 **1918億9907万円**

コープトレーディング(貿易業)

イタリア生協からの輸入など
商品アイテム数 **30点**

夕食宅配サービス

2025年度利用人数 **1万2550人**

年間提供食数213万8248食
配食車両台数193台

ちよこっと

コープさっぽろ広報誌(食の情報誌)
毎月21日発行
63万部／月

児童会館ランチ

実施市町村数8市3町
実施館数405館
提供累計数
6万3994食
(2025年3月21日～26年3月20日)

高校生チャレンジグルメコンテスト

地元食材で開発したレシピで競う
2025年度参加市町村数
17市町村(累計63市町村／2013年～)
2025年度参加学校数
18校(累計73校／2013年～)

高齢者見守り協定

176市町村締結(道内全179市町村中)
2025年度発生対応件数 **149件**
(累計1991件／2010年～)

文化教室・貸し教室・文化鑑賞会

文化教室17教室／キッチンスタジオ3カ所
貸し教室33カ所／文化鑑賞会会員635人
事業高 **4億6550万円**

2025年度定期講座受講者数7566人

コープの家族葬

全道43式場
2025年度事業高4億4742万円
葬儀件数 **4000件**
(累計1万2040件／2022年7月～)

移動販売車 「おまかせ便カケル」

137市町村 61店舗97台での運行
事業高 **22億4000万円**

宅配トドック

利用世帯数 **48万6567世帯**
物流センター52拠点
事業高1185億円 宅配車両台数1370台

北海道ロジサービス(物流業)

トラック車両台数 **750台**
(江別物流センター1日あたり入場台数)

食べる・たいせつフェスティバル

食育イベント
2025年参加人数 **3万5924人**
(累計38万4998人／2007年～)

ご近所やさい

2025年度供給額 **約28億円**
販売数1442万4945点
稼働生産者数 **約1000軒**

スクールランチ

実施市町村数5市町村
(様似町・愛別町・初山別村・留萌市・長万部町)
2025年度
昼食配膳数 **36万4984食**
(累計64万5648食／
2021年9月～26年3月25日)
※現在1日 約1900食提供

コープさっぽろ 大学生育英奨学金

100万円／4年を給付
2025年度利用者 **289人**
(累計2299人／2017年～)

2025年度支援額 **7225万円**
(累計5億7475万円／2017年～)

トドックフードバンク

提供金額 **9638万5865円**／年
(累計6億2583万5822円／2016年～)
児童養護施設22カ所
児童自立支援施設1カ所 ほか全5団体へ提供



人と人をつなぐ事業

つながり形成 & 生活協同組合

- 組合員活動
- 文化教室
- 福祉活動
- 医療
- 家族葬
- 旅行
- 雇用

人と食をつなぐ事業

食のプロデュース能力

- 店舗
- 移動販売
- 食育
- 製造
- 宅配・配食

人と未来をつなぐ事業

ソーシャルビジネス開発能力

- 共済
- エネルギー
- 子育て支援
- リサイクル
- 環境活動

生産工場

事業高 **215億円**
・コープさっぽろ生鮮PC(畜産、水産)
・コープフーズ(株)
石狩(惣菜)、江別(日配)、配食工場全道7カ所
(※2025年度新規開設工場:留萌工場)、
社会給食事業
・(株)札幌駅立売商会(弁菜亭)
・北海道はまなす食品(株)(納豆)
・(株)大雪水資源保全センター(水)
・さくら食品(株)(アイスクリーム)
・クレードル興農(株)
(喜茂別工場、伊達工場)
・(株)コスモジャパン(畜産加工)
・(株)アグリテック真狩(農産加工)

畑でレストラン

生産者とシェフと組合員さんをつなぐ
1日限定レストラン。9000円／名
2025年度開催数15回
(累計281回／2010年～)
2025年度参加人数 **636人**
(累計1万205人／2010年～)

医療連携

2025年度
健康診断実施事業所数
延べ222カ所

2025年度
健康診断受診人数 **延べ1万517人**

大分県大分市佐賀関の 大規模火災災害支援金

募金総額 **1954万3585円**

ミャンマー地震緊急募金

募金総額 **2130万1335円**

コープパートナーズ

障がい者雇用率 **8.41%**
障がい者雇用人数 **887人**

えほんがトドック

絵本無償配布
2025年度お届け世帯数
1万2160世帯
(累計15万3356世帯／2010年～)

2025年度お届け冊数 **8万4218冊**
(累計72万8505冊／2010年～)

※えほんわくわくキャラバン

2025年訪問数 **196園**
2025年訪問園児人数1万7254人
(累計1654園・14万1084人／2012年～)

トドックエコステーション

環境学習の拠点
見学者数 **2677人**／年
※うち小・中学生16校796人
(累計1万4815人／2017年～)

エネコープ(エネルギー事業)

事業高 **131億3000万円**
営業所15拠点 メガソーラー施設2カ所(帯広)

トドック電力(電気事業)

事業高63億3100万円
2025年度
利用世帯数 **4万3828世帯**
2025年度利用事業所数650事業所

大学連携

- ・関西大学
- ・小樽商科大学
- ・酪農学園大学
- ・旭川市立大学
- ・旭川市立短期大学
- ・室蘭工業大学
- ・北海道文教大学
- ・函館短期大学
- ・札幌大学
- ・北海道大学
- ・北海学園大学
- ・札幌学院大学
- ・北星学園大学
- ・北星学園大学 短期大学部

店舗連携

- ・JAみねのぶ(美咲市)
- ・魚長(函館市・北斗市・七飯町／18店舗)
- ・ココフ(北竜町)
- ・フレッシュマートしんたに(妹背牛町)
- ・おこっぺマート(興部町)

街のクリーンアップ大作戦!

2025年参加人数 **1023人**
(累計1553人／2024年～)

コープさっぽろ事業

MAP

コープさっぽろは多岐にわたる分野で課題解決へと「つなぐ」事業を実施しています。主な事業とその規模を一覧でご紹介します。

組合員数 (組合員組織率84.7%) ※北海道一般世帯数247万世帯	209万7633人
出資金額	873億円
総事業高	3159億円
店舗事業高	1918億円
宅配事業高	1185億円
共済事業	22億円
その他	32億円
経常剰余	33億円
職員数	1万5640人
※障がい者雇用	8.41%(887人)
※外国人就労人数	650人

2026年3月20日現在

トドックステーション

宅配センター内のコミュニティスペース
全道34カ所(うち店舗併設10カ所)
2025年度利用 **4万1950人**
(累計26万455人／2016年～)

ファーストチャイルドボックス・ コープチャイルドボックス

育児支援パッケージ無償配布
2025年度お届け **1万1338人**
(累計9万2828人／2018年4月～)
※2025年北海道出生数の52%

エコセンター

総事業高 **5億302万円**
3万3151t／年間回収量
(累計54万5120t／2008年～)
古着1142t／年間
ペットボトル回収約 523万1000本／年間

SDGs プラットフォーム

北海道の環境、貧困問題などへの支援を後押しする産学官協議会(事務局:コープさっぽろ)

第11回SDGs研究会参加人数 **250人**
(累計2268人・累計開催数11回／2019年～)

コープ未来の森づくり基金

植樹 **4908本**／年間
(累計13万4847本／2008年～)



車検に対する費用や手間の不安を解決 ▶▶▶ 見積もり時に費用が確定 「トドック車検」開始

費用や手間の不安の声も多い車検。灯油配達や廃車買取サービスを行う関連会社のエネコは株式会社ナルネットコミュニケーションズと提携し、2025年9月29日に車検サービスを開始。最大の特徴は見積もり時に費用が確定する仕組みで、無料の引取納車・代車提供、整備・部品保証も標準で付帯。



2025年度成約数・廃車買取数

80件・335台
(問合せ数840件)

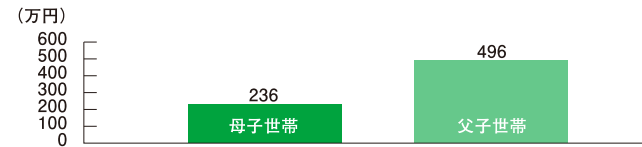


子どもたちの学習や生活を支援 ▶▶▶ コープさっぽろ×リリアブル 児童養護施設へ文具進呈

コープさっぽろと株式会社リリアブルは、包括連携協定に基づき社会貢献活動に取り組んでいます。その一環として、販売期間の終了によりコーチャンフォーで販売できなくなった文房具や各種ノベルティを、リリアブルから提供いただき、コープさっぽろが仲介役となって道内の児童養護施設へ贈呈しました。



■ひとり親世帯の平均年間就労収入



厚生労働省「令和3年度 全国ひとり親世帯等調査結果」より作成

奨学金を利用した高校生の声

- 松下政経塾スピーチコンテストで全国から10人のうちの1人に選ばれ、決勝大会に出場することができました。(3年生)
- 韓国水原市で4泊5日のホームステイを体験。韓国への興味が増し、今は韓国語と英語の勉強に励んでいます。(2年生)



経済的困窮が引き起こす教育格差 ▶▶▶ ひとり親の高校生への 「育英奨学金」

現在、日本に暮らすひとり親家庭の半数が貧困状態にあり、経済的な不安から進学を諦めざるを得ない子どもたちがいます。公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金は1989年に発足し、30年以上にわたってひとり親家庭や心身障がい児への育英奨学金事業を継続して行ってきました。経済的に就学困難なひとり親家庭の高校生・高専生と特別支援高等部生を対象に、返済不要の奨学金月額1万円を卒業までの3年間給付しています。奨学金は個人や法人からの寄付に加え、コープさっぽろ関連会社の経常利益の10%を財源に充てています。

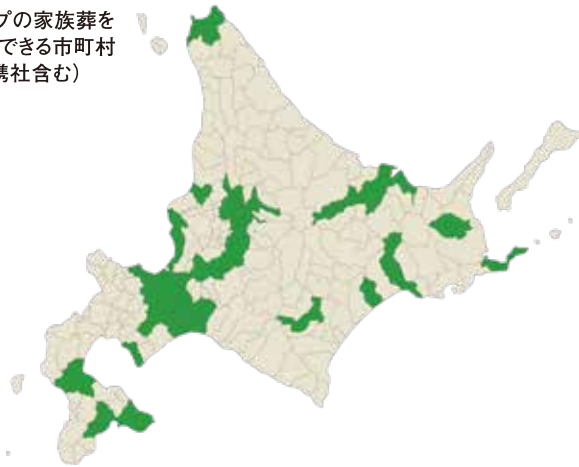
2025年度に支援した奨学生・支援額

650名・7777万円
(累計5456人・7億145万円/1989年~)

お問合せ ▶ コープさっぽろ社会福祉基金 | TEL 050・1751・6989 月・火・木・金10:00~16:00(祝日除く) 詳しくはこちら



■コープの家族葬を
利用できる市町村
(提携社含む)



利用者の声

一つひとつの説明が明確で、オプションや数量の相談にも丁寧に応じてくださいました。フリエを選んで正解。大満足の葬儀、ありがとうございました。



最期の見送りに生協の安心を ▶▶▶ 「コープの家族葬」 釧路に3号店オープン

1996年に、組合員さんのご要望により開始された葬祭事業「コープの家族葬(旧フリエ葬)」。2012年に「つきさむホール」、17年には「しんことにホール」の直営2ホールをオープンしました。21年には「家族葬のウィズハウス」を運営する株式会社めもるホールディングスと業務提携し、札幌市内近郊をはじめ、苫小牧、千歳、函館、旭川、江別、釧路、北見、網走へも拡大。25年11月には、釧路エリア3号店となる葬儀の新式場「コープの家族葬ウィズハウス 釧路喜多町」をオープンし、コープの家族葬施行ホールは道内43式場となりました。

2025年度施行実績・葬儀場数

4000件・全道43式場
(累計1万2040件/2022年7月~)

詳しくはこちら



お問合せ ▶ コープの家族葬 | ☎ 0120・617・750 24時間対応



結婚・出産を阻む奨学金返済問題 ▶▶▶ 職員の奨学金返済を補助 「職員奨学金返済支援制度」

新入職員が安心して働ける環境づくりを目指し、2019年に「職員奨学金返済支援制度」を創設しました。大学・大学院を卒業し新卒入協した職員を対象に、毎月の奨学金返済額の半分を給与として支給します。返済月額が2万円以上の場合は、1万円を超える分を全額支給。新卒職員の約3割がこの制度を利用しています。



※写真はイメージです

2025年度利用職員数・支援額

44人・35万8064円/月
(累計157人・3799万5984円/2019年~)



学費高騰が少子化・人口減の原因に ▶▶▶ 4年間で100万円給付 「大学生育英奨学金」

家庭の経済的事情で進学を断念せざるを得ない子どもたちが一人でも多く進学できるように、2017年に「大学生育英奨学金制度」を創設しました。コープさっぽろで働く大学生に、返済不要の奨学金を年間25万円、最長4年間給付しています。累計対象者は2000人を超え、支援金額も5億円を超えました。



2025年度の利用者・支援額

289人・7225万円
(累計2299人・5億7475万円/2017年~)



健康保持や医療費の抑制に貢献 ▶▶▶
**札幌、岩見沢、黒松内で
 「巡回型健康診断」**

北海道は、特定健診受診率が“全国最下位”という現状。「北海道の医療に貢献したい」という思いから、2023年に医療連携事業部を設立しました。店舗や宅配センターなど、全道の事業所を主な拠点とした巡回型健康診断を、25年度から組合員さん向けにスタート。現在3つの自治体と特定健診事業に関する契約を結び、25年9月から岩見沢市、11月から黒松内町、そして26年1月からは札幌市で実施しています。「お買い物ついでに健診が受けられる」ことで健診に対するハードルを下げ、今後も気軽に健診が受けられる環境を整備していきます。

2025年度健康診断延べ実施事業所数・延べ受診人数

222カ所・1万517人



特定健診受診率 **ワースト5**

北海道	46.6%
和歌山県	48.8%
長崎県	49.7%
奈良県	50.0%
沖縄県	51.2%

特定健診受診率 **トップ5**

東京都	72.9%
山形県	67.5%
富山県	63.3%
宮城県	62.4%
新潟県	62.4%

全国平均 57.8%

厚生労働省「令和4年度都道府県別特定健康受診率」より

受診者の声

●退職するまでは職場で毎年健康診断を受けていたけど、それからずっとやっていなかったのが2年半ぶりです。(男性) ●10年ぶりの健診です。腰を痛めて外に出られなくておっくうになっていました。(女性)

お問合せ ▶ コープさっぽろ健診室 (医療連携事業部)

TEL **050・1752・2011**

月～金9:00～17:00(祝日は除く)

メール iryorenkeijigyobu@sapporo.coop

詳しくはこちら



旅を楽しんでもらえるように ▶▶▶
**学生や組合員さんと連携
 「コープトラベル」の企画**

「観光業に関心を持つ若者を育てよう」と、関連会社コープトラベルは札幌市内の学生・生徒たちと日帰りツアーを企画。2025年は9月に仁木町でのブドウ収穫や、10月に江別市でのかぼちゃ収穫を盛り込んだツアーが行われました。「組合員さんの旅行の夢を叶えよう」と組合員さんから企画をつのり、45名の応募から選ばれた「“古平港寿し”とたらこミュージアム日帰りバスツアー」も同年9月に実施。また、組合員さんの海外旅行を応援しようと、先着100名様にパスポート取得費用の半額を補助するキャンペーンも実施しました。

日帰りツアーボランティア参加人数

34人 (札幌国際大学21名、札幌新陽高校13名)

組合員さんが企画したツアー参加人数

58人

コープトラベルについて
 詳しくはこちら



1日も早く日常が取り戻せるように ▶▶▶
**「大分県大分市佐賀関の
 大規模火災 災害支援募金」**

2025年11月18日に発生した大分県大分市佐賀関の大規模火災。多くの方が被害にあわれたことから、店舗全店と宅配トドックで募金活動を開始。店舗は同年12月25日から、宅配トドックは26年1月12日からつのり、いずれも2月20日まで実施。組合員さんから寄せられた寄付金は被災された方々の支援に使われています。



募金総額 **1954万3585円**

店舗・アプリ/2025年12月25日～2026年2月20日

宅配/2026年1月12日～2月20日



1日も早く日常が取り戻せるように ▶▶▶
**被災地の子どもたちへ届け
 「ミャンマー地震 緊急募金」**

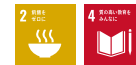
2025年3月28日に発生したミャンマー地震。「被災された子どもたちのために」と店舗全店と宅配トドックで、25年4月7日から5月31日にかけて緊急募金に取り組みました。寄せられた寄付金は「ミャンマー地震 緊急募金」として、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて子どもたちの支援に使われます。



募金総額 **2130万1335円**

店舗・アプリ/2025年4月7日～5月31日

宅配/2025年4月21日～5月31日



子どもたちの食の独り立ちを応援 ▶▶▶
**施設で子どもたちと調理実習
 「トドックフードキャラバン」**

トドックフードバンクの食品を提供している児童養護施設などで、コープさっぽろの職員が子どもたちに料理の基本や食の楽しさを伝える食育プログラム。児童養護施設は最長22歳で退所し、独り立ちしなければなりません。調理実習を通して、子どもたちの自立を応援しています。



2025年度訪問数・参加者数

8回・85人

(累計81回・990人/2016年～)



「もったいない食品」を有効に ▶▶▶
**児童養護施設へ食品提供
 「トドックフードバンク」**

食品ロスを削減するため、2016年に立ち上げたフードバンク事業。道内の児童養護施設などへ、宅配トドックで返品された食品を提供しています。22年からは毎年1月に、季節商品「もったいない食品」を中心に道内の児童養護施設22施設・児童自立支援施設1カ所・ファミリーホーム30カ所・ほか4団体へ提供しています。



2025年度提供金額

9638万5865円

(累計6億2583万5822円/2016年～)



	エリア	会場	開催日	参加人数
1	苫小牧	苫小牧市総合体育館	8月30日	2204人
2	函館	函館大学	9月13日	2820人
3	旭川	道北アークス大雪アリーナ	9月20日	5027人
4	帯広	十勝農協連家畜共進会場 アグリアリーナ	9月27日	3316人
5	北見	サンドーム北見& サンライフ北見	9月27日	3905人
6	室蘭	粟林商会アリーナ	10月18日	2084人
7	釧路	釧路市 観光国際交流センター	11月15日	2337人
8	札幌	大和ハウス プレミストドーム	11月22日	1万4231人

食べる・たいせつ
フェスティバル2025



参加者の声
●無料にも関わらず穏やかな雰囲気でもとても安心して遊べました。●とても時間が足りないくらい楽しめるイベントでした。来年も楽しみにしています!●出展を見たり試食や買い物など楽しかったです。

お問合せ ▶ コープさっぽろ 組合員活動部 | メール csap.katudou@sapporo.coop



食育・環境・暮らしの関心を高める ▶▶▶
**道内8地区で開催
「食べる・たいせつ
フェスティバル2025」**

「食べることのたいせつさ」を楽しく学べる、入場無料の大型食育イベントです。2007年に始まり、現在は全道8地区で開催。「食」はもちろん「環境」や「暮らし」などさまざまなテーマの体験プログラムを用意。コープさっぽろで準備したブース以外にも、道民になじみの深いメーカーや学校、地元野菜の販売ブースなどが設置され、地域色豊かに行われています。中でも子どもたちが宅配やレジ打ちなどにチャレンジできる「おしごと体験」は毎年人気です。2025年は子どもだけでなく大人が楽しめる内容も増え、進化は加速しています。

2025年度参加人数

3万5924人 (8会場)
(累計38万4998人/2007年~)



アートで多様な才能と社会をつなぐ ▶▶▶
**「くばらだんだんアート2025
北海道展覧会」開催**

「絵画を通して障がいのある方々が社会参加をするきっかけを作りたい」。久原本家グループが取り組む「くばらだんだんアートプロジェクト」の目的に賛同し、2025年にコープさっぽろ賞を新設。同賞と大賞を含む計245作品を同年7月16日~19日の4日間、札幌市民ギャラリーで展示し、展覧会を開催しました。



2025年度北海道内応募作品数 (全応募作品数)

402件 (1170件)
(応募期間2025年7月1日~10月1日)



雇用のバリアフリー化を促進 ▶▶▶
**働ける環境を整えて
「障がい者雇用」8%超え**

国が定める障がい者法定雇用率2.5%を、大幅に上回る雇用を実現。店舗や宅配センター、物流センター、食品工場など、関連会社を含めて全道各地にあるさまざまな働く場を生かし、障がい者の方からの「地元で働きたい」などの希望やそれぞれの特性にあわせて、安心して働けるように環境を整えています。



障がい者雇用率・障がい者雇用人数

8.41%・887人
※2026年3月時点



地域の子どもの食を支援 ▶▶▶
**2025年は留萌・長万部でも開始
「スクールランチ」**

関連会社のコープフーズ株式会社は2021年、様似町の小中学校へ「あたたかい昼食を届けたい」とスクールランチの提供を始めました。その後愛別町、初山別村と続き、25年4月には留萌市、10月には長万部町でもスタート。アレルギー食にも対応し、栄養バランスや衛生管理を重視したメニューに地元食材を積極的に取り入れるなど、食育にも力を入れています。留萌市では小中学校7校に向けて昼食を届けていますが、学校給食法に基づく「学校給食」として提供。民間組織が学校給食を提供するのは北海道では初めてで、全国的にも珍しいケースです。

留萌市昼食提供人数

1141人/日
(25年4月7日~小中学校7校の児童生徒と教職員)

長万部町昼食提供人数

305人/日 (25年10月1日~
小中高校3校の児童生徒と教職員)



動物の健やかな暮らしを支援 ▶▶▶
**物価高騰によるエサ代に悩む
「動物園へ規格外フルーツ」寄贈**

昨今の野菜・果物高騰は、動物たちにも深刻な影響が。コープさっぽろは札幌市円山動物園からの要請を受けて、2025年7月15日より規格外のフルーツを無償提供する支援活動を開始。ANAフーズ株式会社、スノウプル札幌株式会社にご賛同いただき、毎月バナナ約250kg、りんご約100~150kgを継続的に提供しています。



2025年度規格外フルーツ提供数

りんご約6900kg
バナナ約2500kg・みかん約700kg・ぶどう約20kg



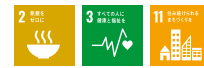
動物の健やかな暮らしを支援 ▶▶▶
**バックヤードツアーも実施
「ホッキョクグマ応援プロジェクト」**

2009年より絶滅危惧種のホッキョクグマを支援するプロジェクトを実施し、全道4カ所の動物園へ毎年各200万円寄付しています。25年7・8月と26年1月には創業60周年企画として各園で「バックヤードツアー」を実施。飼育施設を見学したりエサを準備したりと、小学生たちが動物への学びを深める時間となりました。



バックヤードツアー参加人数 (親子)

夏219人・冬120人
(札幌市円山動物園、旭川市旭山動物園、おびひろ動物園、釧路市動物園合計)



保護者の家事負担を軽減 ▶▶

夏休み & 冬休みに昼食を提供 「児童会館ランチ」エリア拡大

学校給食のない夏休みや冬休みの間、児童クラブを利用するには通常保護者がお弁当を用意します。お弁当作りの負担は決して小さくありません。こうした家事負担を少しでも軽くするため、コープさっぽろは自治体からの委託を受け、2024年夏から児童クラブへの昼食提供を開始しました。初年度は札幌市・北広島市・旭川市など5市2町で実施。2025年夏には北斗市と帯広市（一部）で、冬休みには恵庭市、音更町にも拡大しました。保護者からは「弁当作りの負担が減った」「栄養バランスがよく安心して利用できる」といった声が寄せられています。

2025年度実施施設数・注文数・市町村数

405館・6万3994食・8市3町

利用者の声

おかずの種類が豊富で、息子（小3）は大満足です。親としては、毎日のお弁当作りや暑さによる傷みの心配から解放されて助かっています。体調不良で休んだ日にも、児童クラブで受け取れるのありがたいです。（夏休みに利用した保護者）



お問合せ ▶ コープさっぽろ配食事業部

☎ 0120・279・949 月～土10:00～18:00



高校生へ食の大切さを伝える ▶▶

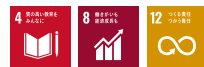
高校生が食と農を学ぶ 「アニマドーレ」

コープさっぽろが支援する「アニマドーレ」は、高校生が食と農にふれながら将来の生き方や働き方を考える、食農教育とキャリア探究のプログラムです。農家訪問バスツアーや店舗での農産物販売体験など、農業に関わるユニークな体験活動を実施し、札幌市立高校学校間連携プログラムにも指定されています。



2025年度参加校数・参加人数 **6校**・34人

参加校/市立札幌開成中等教育学校(後期課程)、市立札幌新川高等学校、市立札幌清田高等学校、市立札幌大通高等学校、市立札幌旭丘高等学校、市立札幌平岸高等学校



食を通して郷土を知り、社会を知る ▶▶

「高校生チャレンジ グルメコンテスト」

高校生自らが販売までを想定したメニューの開発とプレゼンテーションを行うコンテスト。地域の食文化や食材を掘り下げ、企業や行政と連携して「わが町グルメ」を開発します。第13回(2025年度)チャレンジグルメ大賞は、ご当地メンチカツを考案した北海道静内農業高等学校「めんち家族」チームが受賞しました。



2025年度参加市町村数・参加高校数

17市町村・18校(53チーム)

(累計63市町村・73校/2013年～)



生産者を応援!食で地域を元気に ▶▶

北海道発グリーンツーリズム 「畑でレストラン」

コープさっぽろ農業賞の受賞生産者の畑を舞台にした1日限定のレストラン。北海道で活躍する実力派シェフが、その土地の素材で構成したスペシャルランチコースを提供。畑を歩き、生産者さんやシェフの話に耳を傾ける——大自然の中で地元の恵みを実感し、北海道で暮らすことへの愛着が深まるひとときです。



2025年度開催数・参加人数

15回・636人

(累計281回・1万205人/2010年～)



高齢者の食事支援と見守り ▶▶

毎日違う食事をお届け 「夕食宅配サービス」

自宅で夕食を作るのが困難な方へ向け、2010年にスタートした夕食宅配サービス(配食サービス)。専属の管理栄養士が塩分・カロリー・品目数に配慮した日替わりメニューを用意し、好みに応じて選べるのも魅力です。利用は週1回から可能で、顔なじみのスタッフが毎回届けることで見守りの役割も果たしています。



2025年度夕食宅配サービス利用者数・総食数

年間利用者 **1万2550人**
・総食数213万8248食

(累計15万5950人・2343万1248食/2010年～)



消費者目線で生産者を応援 ▶▶

つながりを新たな価値に 「コープさっぽろ農業賞」

コープさっぽろ農業賞は「消費者の目線で北海道の優れた第一次産業の生産者を応援する」ことを目的に2004年に創設されました。これまでに223団体を表彰、累計応募数は1322件に上ります。生産者とのつながりは「畑でレストラン」や「ご近所やさい」など多彩な事業に発展。次回(第13回)は28年に実施予定です。



地産地消の輪を広げる ▶▶

地元野菜の直売コーナー 「ご近所やさい」

店舗周辺で生産し、生産者が特定できる野菜や果物、平飼卵などを扱う「ご近所やさい」コーナー。2026年3月現在の稼働生産者は約1000軒。生産者自身が価格を決め、名前を出して販売するので、売上に直結すると同時にやりがいにもつながります。生産地からの輸送距離が短く、CO₂削減にも寄与しています。



2025年度商品供給額・稼働生産者数

約28億円・約1000軒



海洋ごみの約8割は街から ▶▶

街から海をきれいにしよう 「街のクリーンアップ大作戦！」

海洋ごみの多くは「街のごみ」です。海を守るには、日頃からごみを出さない意識が重要です。意識啓発と継続的な街の美化を目指し、2025年10月25日に大通会場・平岸会場・新琴似会場で「街のクリーンアップ大作戦！」がYOSAKOIソーラン祭り組織委員会、株式会社エネコップと共同で開催されました。



2025年度参加人数・ごみ袋数(2025年10月25日)

1023人・20袋

(累計1553人・31袋/2024年～) ※45リットル袋換算



プラスチックごみによる海の世界破壊 ▶▶

体験を通して海洋汚染を考える 「海のクリーンアップ大作戦！」

深刻な海洋汚染を身近な課題として考えるため、2021年に「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！」が始まりました。2025年度は全道48カ所の海岸で2日間にわたり一斉にごみ拾いを実施。コープさっぽろの職員や組合員さんをはじめ、多数の企業、学校、自治体から多くの方が参加し、汗を流しました。



2025年度参加人数・ごみ袋数(2025年5月14日・17日)

1万3498人・3464袋

(累計4万6179人・2万988袋/2021年～) ※45リットル袋換算



利用者の声

地域の小売店は歩いて行くには遠いので、コープの移動販売車にはお世話になっています。大型スーパーへはバスで行かなくてはならないから、「助かるね」っていつもみんなで話していますよ。担当の方とお話するのも、すごく楽しみです。(日高町・女性)

お問合せ ▶ コープさっぽろ移動販売事業部

TEL 050・1752・1931 火～土10:00～17:00

詳しくはこちら



増えていく買い物困難者を支援 ▶▶

軒先にスーパーがやってくる!? 移動販売車「おまかせ便カケル」

過疎化により地域から大型店の撤退が相次ぎ、北海道だけで45万人の「買い物困難者」がいるといわれます。コープさっぽろは「全道の買い物困難者の7割を解消する」ことを目標に、2010年に移動販売事業部を新設しました。現在は137市町村(カバー率77%)で移動販売車「おまかせ便カケル」を運行しています。大型冷蔵庫を備えた2トン車には、鮮魚や精肉、野菜、惣菜、仏花、日用品など約1000品目をそろえ、組合員さんの自宅そばまで“お店”を届けています。25年6月には、運送会社の人手不足で仕入れが困難な商店に商品を卸すサービスを始めました。

運行エリア・カバー率・2025年度延べ利用人数

137市町村・77%・84万人



子どもたちへの
機会創出と地域貢献 ▶▶

レバンガ北海道と 包括連携協定を締結

コープさっぽろはBリーグ1部のレバンガ北海道と、2025年8月25日に包括連携協定を締結しました。協定に基づき、道内小学生向けのバスケット大会新設や、ドックステーションへの幼児用ゴール設置など、子どもたちがバスケットに親しむ機会の創出を図ります。また、ホームアリーナの北海きたえーるでの試合開催時に古着回収ボックスを設置し、回収したユニフォームなどをカンボジアへ送付。その販売収益を子育て支援に充てる予定です。協定の一環として、11月27日には平岡店でレバンガのマスコット「レバード」とともに店頭募金を実施しました。

お問合せ ▶ コープさっぽろ広報部

TEL 050・1741・5516

月～金10:00～17:00(年末年始除く)



利用者の声

- 濃厚つゆ「口元に近づけた瞬間に…だしの香りがすごい」「めっちゃ好きな味」「3倍濃厚!この味でこの値段はいい」
- バタぼん「うますぎた。おすすめ!」「バタぼん神」「これもうポン酢じゃない。めっちゃフルーティーなソースだ!」

濃厚つゆ 販売数

3万8956点・供給高1950万1409円

(2025年2月18日～2026年2月20日)

北海道バタぼん™by味ぼん® 販売数

3万3366点・供給高1633万0138円

(2025年5月20日～2026年2月20日)



北海道の食の付加価値を高める ▶▶

組合員さんと一緒につくる 商品開発「プロエコ」

プロセスエコノミーとは、完成品だけでなく、商品開発の過程(プロセス)を公開・共有して、愛着を醸成し収益化するマーケティング手法です。コープさっぽろはこれを商品開発に応用。組合員さんが企画段階から参画し、アイデア出しや試食を重ねながら新商品を開発するプロジェクトに取り組んでいます。2025年2月18日には、経節専門店の株式会社いんべんと協業し、北海道広尾産の星屑昆布など北海道産素材をぜいたくに使った「濃厚つゆ」を発売。同年5月20日には株式会社Mizkanとの共同開発で、ご当地味ぼん「北海道バタぼん™by味ぼん®」を発売しました。

お問合せ ▶ コープさっぽろ広報部

TEL 050・1741・5516

月～金10:00～17:00(年末年始除く)

利用者の声

いただいた絵本をさっそく東京の娘に贈りました。娘からは大変喜んでくれている様子の動画が届き、私までうれしくなりました。これまでも折に触れて絵本をプレゼントしてきましたが、このような企画のおかげで、自分ではなかなか探し出せない良書をたくさん贈ることができ、心から感謝しております。



えほんがトドック2026年度申込み期間／
2026年4月1日～11月30日



大切にしたい親子のふれあい ▶▶▶

「えほんがトドック」
「えほんわくわくキャラバン」

絵本は想像力を育み、親子のコミュニケーションを円滑にする力があります。「えほんがトドック」は2010年6月からスタート。読み聞かせを通して“家庭での親子のふれあい”や“大切にしたい価値観の継承”のきっかけ作りを願い、1～2歳のお子さんがあるご家庭に絵本を合計8冊(26年からは4冊)、無償でお届けしています。また12年からは道内の保育園や幼稚園などをトドックたちが訪問し、子どもたちに絵本の楽しさを伝える「えほんわくわくキャラバン」を実施。これらの取り組みは「エコセンター」の資源回収の利益で成り立っています。

2025年度えほんわくわくキャラバン訪問園数・参加者数

196園・1万7254人
(累計1654園・14万1084人／2012年～)

2025年度えほんがトドックお届け世帯数・累計冊数

1万2160世帯・8万4218冊
(累計15万3356世帯・72万8505冊／2010年～)

お問合せ ▶ コープさっぽろ組合員活動部
子育て支援推進グループ

TEL **050・1751・4885**

月～金9:00～15:00(祝日除く)
メール ehon@sapporo.coop

詳しくはこちら



資源回収が子育て支援に ▶▶▶

得た利益は100%子育てに
「エコセンター」

「エコセンター」は不要な資源物を新たな資源へ生まれ変わらせる処理を行う、リユース・リサイクルのための施設。全道の店舗や宅配トドックから資源物が集められ、365日休まず稼働しています。段ボールやチラシ、紙パックなどのほか、24年からは食器・調理器具類も宅配トドックで回収。またこれまで宅配トドックのみで扱っていた古着をより回収しやすいようにと、2025年10月からは全店舗に「古着回収ボックス」を設置。資源回収で得られた利益は100%子育て支援に充てており、「えほんがトドック」や「ファーストチャイルドボックス」などもこの利益で実現しています。

2025年度エコセンター総回収量・
エコサイクルボックス設置数

3万3151t・4台
(累計54万5120t・19台／2008年～・2024年～)

お問合せ ▶ コープさっぽろエコセンター

TEL **011・391・1177**

月～金10:00～17:00

詳しくはこちら



エントリー者の声

〈園児さん部門〉に参加して知らなかった絵本を知る機会となり、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことができました!



◀ 第1回園児さんと先生でえらぶ! よみかせ絵本部門第1位作品「ニンジンジン」



よみかせのすばらしさを伝える ▶▶▶

全国に聞いた“好きな絵本”
「みんなのよみかせ絵本大賞」

「親子で絵本を読む時間は“ずっと親子のたからもの”。この思いでスタートした「えほんがトドック」は2025年に15周年、コープさっぽろは60周年を迎えました。この節目の年に、「絵本の取り組みを通じてできたつながりを生かして、絵本の賞を」と考え、全国の生協と協力して「みんなのよみかせ絵本大賞」を作りました。全国の保育施設が投票(エントリー)する「園児さんと先生でえらぶ!」部門と、全国どなたでも投票できる「絵本大好きさんがえらぶ!」部門を設け、大賞を選出。25年10月には東京で第1回授賞式が開催されました。

2027年度予定 ※全て予定。2年に一度開催

園児さん部門募集2026年6月／絵本大好きさん部門
2027年5月／大賞発表2027年10月

お問合せ ▶

コープさっぽろ組合員活動部
子育て支援推進グループ

詳しくはこちら



FCB利用者さんの声

服がほかの既製品よりしっとりしている。肌着というよりも一枚もので着せられる。ブランケットは床に敷いて遊べるくらい厚手。全体的に使い勝手が良いと嬉しいことだらけでした。



安全・安心な子育てをサポート ▶▶▶

「ファーストチャイルドボックス」
「離乳食がトドック」無償提供

第1子ご出産予定の方へ母子に必要なグッズを無償で送る「ファーストチャイルドボックス(FCB)」、第2子以降の方への「コープチャイルドボックス(CCB)」の取り組みは2018年にスタート。中味の充実に道内多数の母子が利用しています。子育てをさらに応援しようと、離乳食「きらきらステップ」3商品を3回に分けて無料で届ける「離乳食がトドック」を25年8月からスタート。25年度はFCB・CCB申込み者限定でしたが、26年度からは宅配トドックご利用の方であればだれでも申込みが可能です。生後0カ月～3カ月の間にお申込みください。

2025年度FCB・CCBお届け数

1万1338人
(累計9万2828人／2018年～)



2025年度離乳食がトドック申込者数

1207人
(FCB・CCB申込み者限定。25年8月～)



FCB・CCBお問合せ ▶ コープさっぽろ組合員活動部子育て支援推進グループ

TEL **050・1751・4885**

月～金9:00～15:00(祝日除く)

メール csap.kosodate@sapporo.coop

詳しくはこちら



離乳食がトドックお問合せ ▶

コープさっぽろ宅配事業本部 宅配運営部

TEL **050・1752・1287**

月～土9:00～17:00



北海道のSDGs推進の底上げを図る ▶▶▶
最新事例から学ぶ
「SDGs研究会」

北海道SDGs推進プラットフォーム(事務局:コープさっぽろ)が先進事例報告の場として開催し、SDGsの推進を図っています。2025年の第11回研究会はオンラインで行われ、森林業コンサルタント長野麻子氏による基調講演、SDGs QUEST みらい甲子園2024年度北海道大会受賞校の事例報告などが行われました。



第11回SDGs研究会参加人数
250人
(累計2268人/2019年~11回開催)



CO₂削減とともに北海道産資源の有効活用 ▶▶▶
東川町の資源米に切り替え
「ライスレジン®袋」

2023年より店舗で使われるライスレジン®配合のレジ袋。ライスレジン®とは食用に適さない米を原料としたバイオマスプラスチックで、石油由来のプラスチック使用量削減やCO₂排出抑制など、環境負荷の低減に寄与します。25年8月21日より原料を東川町の資源米(非食用)に切り替え、店舗へ順次導入しました。



レジ袋辞退率
87.6%



共働き世帯の子育てを支援 ▶▶▶
「コープの学童 トドックキッズ
クラブのっぼろ」新築移転

放課後児童クラブ「コープの学童 トドックキッズクラブ」(しんことにのっぼろ)を2025年4月に開所。その後のっぼろは新築移転し、12月1日より新施設で運営しています。トドックキッズクラブはコープさっぽろのネットワークを生かして、食をはじめ多様な体験を通じ、子どもたちの豊かな人間性を育むことを目的としています。



2025年度利用者数
43人
(定員数/しんことに40人・のっぼろ35人)



平和のバトンをつなぐために ▶▶▶
中高生を被爆地「ヒロシマ」へ
「平和スタディツアー」

平和教育の一環として、被爆地ヒロシマに北海道の中高生を毎年派遣。店舗、宅配、アプリを通して寄付金をつくり、参加者の派遣費用と報告会開催費用に充てています。2025年9月は札幌駅前通り地下歩行空間で報告会が開かれ、参加した生徒による報告や、平和を題材にしたディスカッションなどが行われました。



2025年度募金額、ピースフォーラム・学校報告会参加者数
285万607円・3414人



霧多布湿原を子どもたちに残したい ▶▶▶
対象商品購入で寄付
「霧多布の自然を守ろう!」

2023年から毎年実施している、サントリーグループとの共同企画キャンペーン。2025年8月27日~9月30日の期間中に店舗や宅配トドックで対象商品を購入すると、商品1点につき1円が「湿原を子どもたちに残そう」というミッションの下に保全活動をしている〈霧多布湿原ナショナルトラスト〉に寄付されます。



2025年寄付金額
96万8870円
(累計261万8145円/2023年~)



地球温暖化と向き合う ▶▶▶
買ってカーボンオフセット
「北海道の森に海に乾杯!」

サッポログループなどのお取引先各社と共同で実施するキャンペーンは、2013年にスタートし今回で13回目。参画企業各社の対象商品を購入することで、商品に応じたCO₂をカーボンオフセットし、道内の森と海の保全活動に貢献。お買い物を通じて、組合員さんとともに環境保全へ貢献します。



2025年カーボンオフセット量・排出権購入額
202t-CO₂・252万5000円
(累計2097t-CO₂・2868万円/2013年~)



地域に子育てコミュニティスペースを ▶▶▶
全道に親子のあそび場
「トドックステーション」

2016年から全道で次々に開設している、地域のコミュニティスペース。コープさっぽろのお店や宅配トドックの配送センター内にあり、入場無料・飲食自由でベビーケアスペースもご利用いただけます。「親子で気軽に過ごせる空間」が見つけにくい昨今、子どもを自由に遊ばせながら大人もゆっくり休める場として人気です。



全道設置数・2025年度利用者数
34カ所・4万1950人
(累計26万455人/2016年~)



新1年生の交通事故ゼロへ ▶▶▶
道内各地の新1年生へ
「ランドセルカバー贈呈」

2010年より、新入学児童へランドセルカバーを寄贈する取り組みを実施してきました。小学1年生の歩行中の交通事故は6年生の2.9倍(2019年~2023年)というデータがあり、交通安全に寄与できればとの願いからスタート。カバーには「トドック」「カケル」「クルリン」の3キャラクターが描かれ、児童を見守っています。



2025年度贈呈市町村数・配布枚数
道内142市町村・1万7142枚
(累計32万9786枚/2010年~)

おかげさまで2025年、 コープさっぽろは60周年を迎えました。

コープさっぽろは1965年(昭和40年)、札幌市民生協として創立。2025年(令和7年)に60周年を迎えました。ずっと支えてくれた北海道の組合員さんへの感謝の気持ちを込めて、2025年はさまざまな企画を行いました。60年間ありがとうございます。そしてこれからも、どうぞよろしくお願いいたします。



巡って集めて! コープさっぽろスタンプラリー

コープさっぽろのお店を巡るスタンプラリーを、4月1日~8月31日の期間に実施。全道各地の店舗にあるスタンプを集めていただき、スタンプの数に応じてコープさっぽろオリジナル商品をプレゼントしました。



「北海道未来学」 書籍化

国内外の第一線で活躍する講師陣を迎え、2023年~2025年にわたり小樽商科大学で実施した講座を書籍化。各界のトッランナーが北海道の未来創造のための指針を提示する、3部作となっています。



「北海道の生活史」出版

北海道で暮らすさまざまな方々の人生を聞き取り、記録することを目的とした1冊です。京大大学院文学研究科教授の岸政彦先生に監修していただき、北海道新聞社に編集制作を依頼して2026年1月21日に出版しました。



宅配センター長による ご利用感謝訪問

宅配センター長が、長年宅配ドックをご利用いただいている組合員さんのお宅を直接訪問。7月から順次、コープ商品詰合せなどのプレゼントをお渡しするとともに、日頃の感謝をお伝えしました。



トドックを探せ! 60周年ラッキートドックトラック

全道で60周年仕様の特別な金色の配達トラックが登場! 宅配ドックのゴールドトラックを見つけて撮影し、XやInstagramへ「#ラッキートドックを探せ」をつけて投稿すると景品がもらえるキャンペーンを実施しました。



店長と行く 感謝のバスツアー

店長が添乗員となり組合員さんをご案内。6月下旬より始まり、約60台を運行して、生産地との取り組みなどを組合員さんに体感していただきました。「組合員」「生産者」「コープさっぽろ」3者をつなぐ企画です。



明日の小箱60×60

コープさっぽろの職員60人が、あらゆる分野の先駆者60人と対話。北海道の現在地を確認しつつ、未来を見つめつつ語り合い、それらをWeb記事・ポスター・CM・書籍などで展開しました。



Fの森フェスティバル参加者の声

夫と息子と参加しました。自分たちのペースで楽しめて、いつも「無理」「やだ」が多い息子がとても楽しそうでした。行く直前まで虫網を持つか悩みましたが、持ってくるべきでした。来年もあればぜひ行きたいです。



CO₂削減とともに北海道の森を守る ▶▶

「未来の森プロジェクト」 Fの森フェスティバル開催

コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退すると0.5円が「コープ未来の森づくり基金」に積み立てられ、北海道の森づくりに広く役立てられます。北海道をはじめ、行政や地域の自治体と協定を結ぶ「コープの森」は現在16カ所あり、組合員さんとともに森づくりを進めています。そのうちの1つ「Fの森」で2025年9月に「森と遊ぼう! Fの森フェスティバル」を開催。当日は森のガイドウォーク、森の音楽隊、森の運動場などさまざまな体験型イベントが用意され、午後には皆で植樹も。270名の参加者は、自然の中で特別な一日を過ごしました。

2025年度植樹本数・参加者数

4908本・270名
(累計13万4847本/2008年~)



お問合せ ▶ コープ未来の森づくり基金 | メール csapmori@sapporo.coop

詳しくはこちら



灯油や電気料金の負担の軽減 ▶▶

「灯油積み立て」「節電のミカタ」 新サービス開始

原油高騰を受けて「冬季に集中する支出を計画的に支払いたい」との組合員さんの声から、グループ会社である株式会社エネコープは2025年7月に「コープのあったか灯油積立」の受付を開始。夏場から毎月一定額を積み立てることで灯油代の家計負担を平準化し、積立額に応じて1Lあたり最大5円のポイント還元が受けられます。また株式会社トドック電力では電気料金の高騰と脱炭素化のニーズに対応するため、家庭や企業向けにさまざまな省エネ商品を組み合わせ合わせたエネルギーコスト削減ソリューション「節電のミカタ」を開始しました。

灯油積み立て
サービス申込数 **5311件**

節電のミカタ
申込数 **30件**

コープのあったか灯油積立

4つのおすすめポイント!

<p>1 冬にドカンとくる灯油代を1年で分散</p> <p>貯まった積立金は、灯油代のお支払いに充当</p>	<p>2 積立額に応じてもらえる嬉しいポイント</p> <p>最大 5円/L相当 ポイント還元!</p>
<p>3 ポイントを積立金に移行できる</p> <p>1ポイントから積立金に利用可能</p>	<p>4 コープのあったか灯油積立 新規ご加入で</p> <p>1,000point プレゼント</p>



灯油積み立てサービス
お問合せ ▶ ☎ **0120・012・458**
月~金9:00~18:00、土9:00~16:00

詳しくはこちら



節電のミカタサービス(トドック電力)
お問合せ ▶ ☎ **0120・012・877**
月~土9:00~18:00(年末年始除く)

詳しくはこちら



環境理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本にして、組合員さん、役員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりを目指します。

7つのお約束

- お約束1・つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かな暮らし」をお約束します。
- お約束2・いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。
- お約束3・組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することをお手伝いをお約束します。
- お約束4・誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。
- お約束5・道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。
- お約束6・地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。
- お約束7・平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じて組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

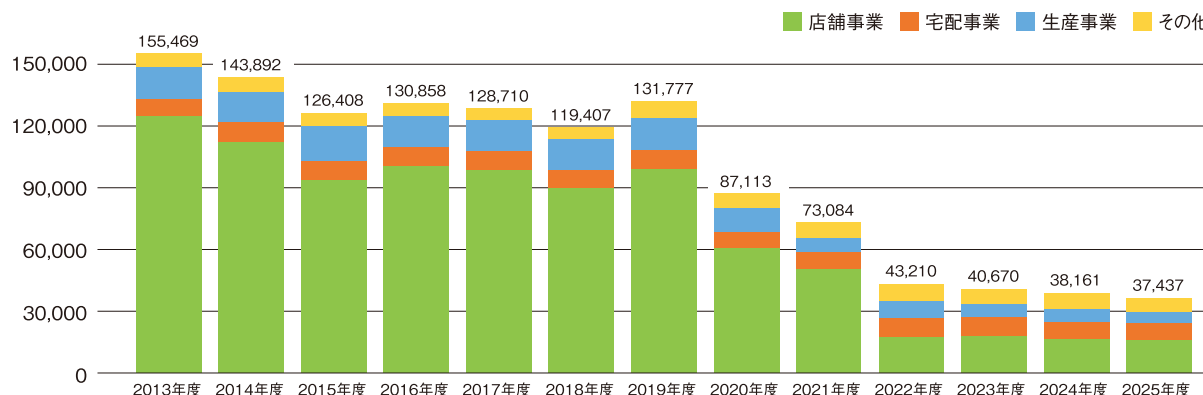
③この方針を全従業員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

環境データ報告

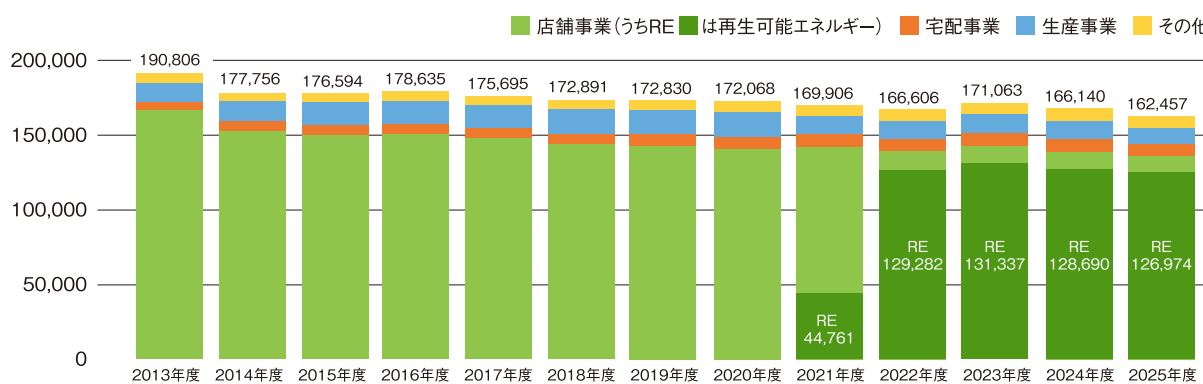
CO₂排出量 ※単位:t

目標は2030年度までに2013年度比で50%の削減です。2025年度時点で75%削減しています。



電気使用量 ※単位:千kWh

コープさっぽろは2018年10月にRE100に加盟しました。事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指しています。再生可能エネルギーの使用目標は2030年度までに60%、2040年度までに100%です。2021年12月から店舗で使用する電気を再生可能エネルギー由来へと切り替えを進めています。2025年度時点で使用する電力の78%が再生可能エネルギーです。



※電気由来の排出量は調整後排出係数を用いて算出しています。2025年度の排出係数は未発表のため、2024年度の係数を用いて算出しています。

●エネルギー使用量(電気以外)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2024年度比
重油(千L)	3,633	3,434	4,033	3,186	2,657	2,292	2,343	2,050	1,242	1,328	1,296	1,224	1,277	104%
灯油(千L)	1,778	1,725	1,704	1,817	1,808	1,670	1,500	1,406	1,327	1,198	1,110	1,043	1,079	103%
都市ガス(千m ³)	1,006	979	1,154	1,358	1,324	1,285	1,359	1,394	1,484	1,445	1,484	1,410	1,468	104%
LPガス(千m ³)	485	490	464	492	513	544	604	642	673	676	721	682	698	102%
軽油(千L)	1,956	2,097	2,189	2,228	2,216	2,198	2,284	2,409	2,489	2,480	2,527	2,445	2,405	98%
ガソリン(千L)	142	158	169	235	351	402	1,346	1,575	1,447	1,399	1,448	1,429	1,251	88%

2019年度からチャーター車両で使用した車両燃料も計上しています。

●電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。●廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。●環境に配慮した事務用品の使用に努めます。●環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。●業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。●組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。●環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所、組合員家庭から出る資源物をエコセンターで回収しています。2025年度は33,151tの資源物を回収しました。これは20,980tのCO₂削減に相当します。

●エコセンター回収量

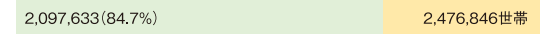
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2024年度比
ダンボール	16,870	16,617	16,991	17,602	17,598	17,178	16,799	18,344	18,649	18,168	17,349	16,535	16,441	99%
週刊ドック	8,262	8,950	9,948	11,041	12,085	13,788	14,735	14,637	15,573	15,993	14,045	13,294	13,188	99%
新聞紙	976	975	983	1,000	954	906	893	704	815	833	686	596	587	98%
雑誌	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	89	107	120%
紙パック	289	292	280	283	276	272	273	274	282	284	270	262	257	98%
発泡	416	384	411	388	374	374	346	372	351	316	297	276	262	95%
内袋	128	125	117	116	116	122	123	119	119	122	118	115	112	97%
ペットボトル	60	58	61	66	47	32	34	42	72	106	160	159	163	103%
アルミ缶	44	44	46	58	68	62	55	60	61	74	97	88	89	101%
スチール缶	30	27	18	24	16	14	12	14	17	12	14	8	6	75%
PPバンド	41	40	42	44	43	34	32	35	33	30	29	27	27	100%
廃食油	726	773	813	854	866	878	901	933	911	740	644	640	637	100%
古着古布	—	21	671	728	747	838	970	1,184	1,324	1,295	1,185	1,208	1,142	95%
食器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	154	136	88%
合計	27,841	28,306	30,379	32,203	33,190	34,499	35,172	36,718	38,208	37,972	34,942	33,451	33,151	99%

古着回収の売り上げをユニセフ指定募金に募金

宅配ドックの資源回収で古着回収を行い、その売上金のうち、2025年度は3,894,249円をユニセフ指定募金「カンボジアよむ・かく・うれしい支援プロジェクト」に募金しました。古着はカンボジアでリユースされるか、または、工業用ぞうきんにリサイクルされています。

組合員動態

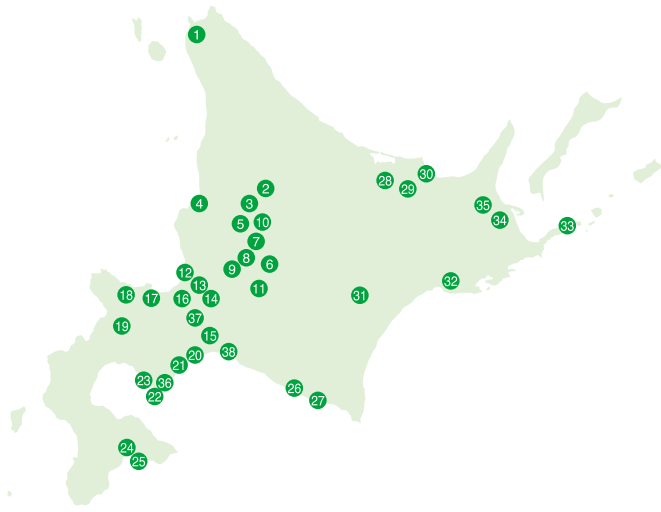
組合員数と組織率



組合員数は2026年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は令和2年国勢調査の結果を使用しています。

■都市別組合員組織率

1 稚内市	6,013人(37.4%)	16,060世帯
2 旭川市	151,419人(96.9%)	156,195世帯
3 深川市	11,058人(120.2%)	9,198世帯
4 留萌市	11,900人(121.2%)	9,816世帯
5 滝川市	16,614人(88.9%)	18,688世帯
6 富良野市	11,992人(125.7%)	9,538世帯
7 砂川市	8,575人(112.8%)	7,599世帯
8 美瑛市	12,681人(134.4%)	9,434世帯
9 岩見沢市	37,663人(105.8%)	35,584世帯
10 赤平市	6,208人(138.1%)	4,494世帯
11 夕張市	4,935人(129.6%)	3,807世帯
12 石狩市	25,539人(110.5%)	23,102世帯
13 江別市	45,923人(85.1%)	53,977世帯
14 北広島市	27,357人(111%)	24,640世帯
15 千歳市	29,224人(66.7%)	43,809世帯
16 札幌市	734,184人(75.8%)	969,161世帯
17 小樽市	57,203人(108.3%)	52,817世帯
18 余市町	9,841人(118.8%)	8,283世帯
19 倶知安町	8,005人(104.9%)	7,631世帯
20 苫小牧市	76,608人(95.6%)	80,130世帯
21 白老町	9,912人(128.9%)	7,688世帯
22 室蘭市	31,229人(74.8%)	41,766世帯
23 伊達市	11,936人(80.4%)	14,844世帯
24 北斗市	18,173人(99.1%)	18,337世帯
25 函館市	121,013人(99.4%)	121,793世帯
26 新ひだか町	10,730人(105.4%)	10,176世帯
27 浦河町	9,346人(157.4%)	5,936世帯
28 遠軽町	12,151人(137.9%)	8,813世帯
29 北見市	50,174人(90.9%)	55,188世帯
30 網走市	17,751人(102.9%)	17,253世帯
31 帯広市	54,404人(67.9%)	80,175世帯
32 釧路市	79,897人(99.4%)	80,349世帯
33 根室市	9,510人(85.3%)	11,153世帯
34 別海町	6,222人(102.1%)	6,092世帯
35 中標津町	8,539人(80.7%)	10,577世帯
36 登別市	19,357人(92.5%)	20,928世帯
37 恵庭市	21,555人(71.2%)	30,276世帯
38 むかわ町	4,581人(125.6%)	3,647世帯
表記以外の市町村合計	308,211人(79.5%)	387,892世帯



■年度別組合員動態

年度	項目	組合員数(人)	前年比増加数(人)	増加率(%)	
				前年比	2020年度比
2020		1,868,534	57,327	103.2	100.0
2021		1,921,098	52,564	102.8	102.8
2022		1,968,441	47,343	102.5	105.3
2023		2,017,607	49,166	102.5	108.0
2024		2,059,239	41,632	102.1	110.2
2025		2,097,633	38,394	101.9	112.3

※2021年3月20日、住所不明・未利用者263名を法廷脱退処理しました。
 ※2022年3月20日、住所不明・未利用者155名を法廷脱退処理しました。
 ※2023年3月20日、住所不明・未利用者145名を法廷脱退処理しました。
 ※2024年3月20日、住所不明・未利用者159名を法廷脱退処理しました。
 ※2025年3月20日、住所不明・未利用者305名を法廷脱退処理しました。
 ※2026年3月20日、住所不明・未利用者383名を法廷脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	76,061人(53.8%)	141,429世帯
北区	109,066人(78.1%)	139,675世帯
東区	81,562人(62.2%)	131,188世帯
白石区	93,278人(86.2%)	108,233世帯
豊平区	83,325人(70.2%)	118,650世帯
南区	69,658人(112.1%)	62,134世帯
西区	79,897人(76.9%)	103,849世帯
厚別区	49,122人(85.7%)	57,289世帯
手稲区	54,430人(89.1%)	61,080世帯
清田区	37,785人(82.8%)	45,634世帯

基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年)7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年)10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常務)	●理事長 大見 英明 ●専務理事 小松 均 ●常務理事 米内 徹 ●常務理事 鈴木 裕子 (2026年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)

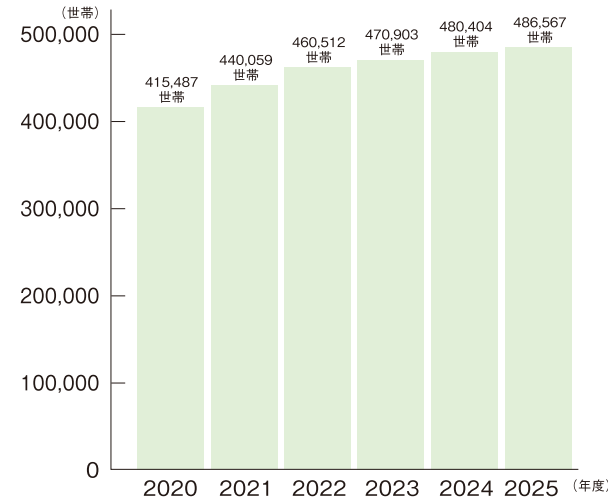
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

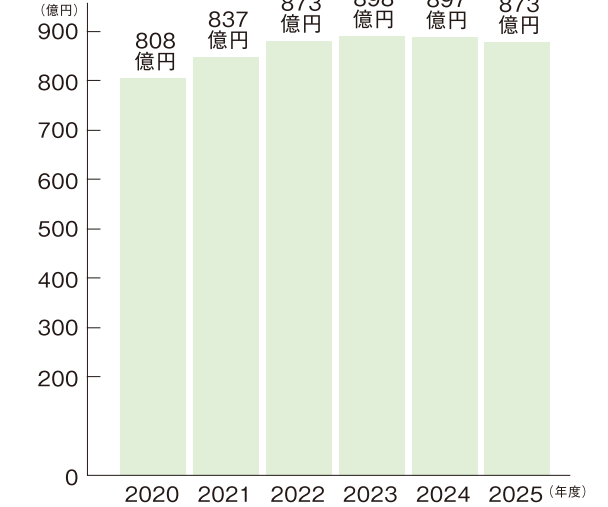
年度	項目	金額(千円)	前年比増加額(千円)	増加率(%)	
				前年比	2020年度比
2020		80,809,922	3,210,372	104.1	100.0
2021		83,674,043	2,864,121	103.5	103.5
2022		87,309,263	3,635,220	104.3	108.0
2023		89,778,259	2,468,996	102.8	111.1
2024		89,657,058	▲121,201	99.9	110.9
2025		87,336,995	▲2,320,063	97.4	108.1

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。定款上の出資金(1口千円単位)は89,229,891千円となります。

資料 宅配トックの登録者数

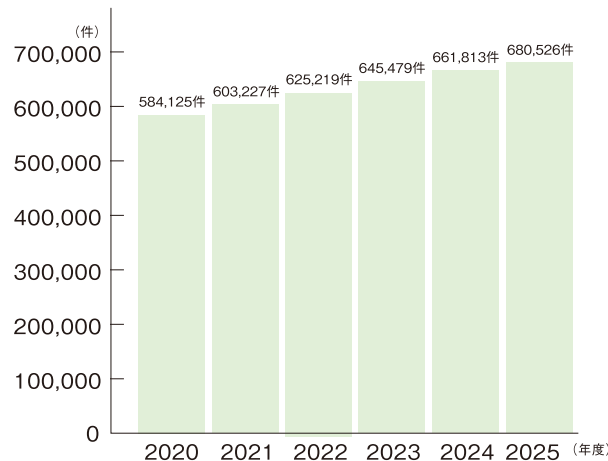


■年度別出資金残高

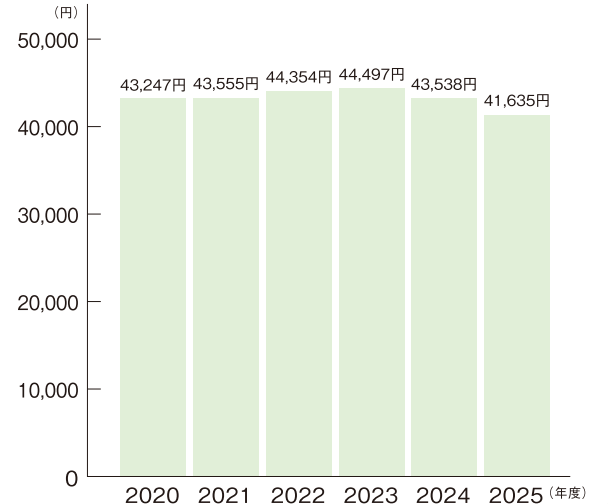


資料 CO・OP共済の状況

■共済4商品の加入者数



■1人当たりの平均出資金



コープさっぽろの取り組みが貢献するSDGs

【SDGs対比表】

コープさっぽろでは、「人・食・未来」を「つなぐ」ことを目標に毎年さまざまな事業を行い、SDGsすべての実現を目指しています。

取り組みのテーマ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
人と人をつなぐ事業	ひとり親の高校生へ育英奨学金	●			●						●							
	大学生育英奨学金				●				●		●							
	職員奨学金返済支援制度				●				●		●							
	児童養護施設へ文具進呈										●		●					●
	トドック車検											●						●
	コープの家族葬			●														●
	ミャンマー地震緊急募金																●	●
	大分県佐賀県大規模火災災害支援募金												●					●
	トドックフードバンク		●											●				
	トドックフードキャラバン		●		●													
	巡回型健康診断			●														●
	コープトラベル、学生・組合員さんと連携				●							●						
	障がい者雇用率8%超え							●			●							
	くぼらだんだんアート北海道展覧会							●			●							●
ホッキョクグマ応援プロジェクト													●		●		●	
動物園へ規格外フルーツ寄贈													●		●		●	
人と食をつなぐ事業	宅配トドック			●								●	●					●
	店舗の生鮮強化		●										●					●
	食べる・たいせつフェスティバル2025				●								●					●
	スクールランチ		●	●	●													
	コープさっぽろ農業賞												●					●
	畑でレストラン												●					●
	ご近所やさい												●	●				●
	夕食宅配サービス		●	●									●					
	児童会館ランチ		●	●									●					
	高校生チャレンジグルメコンテスト				●			●						●				
	アニメドーレ				●									●				
移動販売車おまかせ便カケル			●									●					●	
組合員さんと商品開発プロエコ												●					●	
人と未来をつなぐ事業	海のクリーンアップ大作戦!											●			●	●		
	街のクリーンアップ大作戦!											●			●	●		
	レバンガ北海道と包括連携協定			●										●				●
	エコセンター												●	●				●
	ファーストチャイルドボックス・離乳食			●								●						●
	えほんがトドックえほんわくわくキャラバン				●								●					
	みんなのよみきかせ絵本大賞				●													
	平和スタディツアー																●	●
	コープの学童トドックキッズクラブ			●	●													●
	ランドセルカバー贈呈			●									●					●
	トドックステーション			●									●					●
	ライスレジン®袋													●	●			●
	SDGs研究会																	●
	買ってカーボンオフセットキャンペーン													●	●	●		●
霧多布の自然を守ろう														●	●		●	
未来の森プロジェクト														●			●	
灯油積み立て・節電のミカタ新サービス						●							●	●			●	

事業所数と形態

本部

本部	1カ所	地区本部	8カ所(札幌、帯広日高、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川)
----	-----	------	---------------------------------

店舗

110店舗(2026年3月20日現在)28市22町

札幌市	28店舗	砂川市	1店舗	浦河町	2店舗	赤平市	1店舗
江別市	2店舗	滝川市	1店舗	えりも町	1店舗	別海町	1店舗
北広島市	2店舗	富良野市	1店舗	様似町	1店舗	登別市	3店舗
石狩市	1店舗	留萌市	1店舗	釧路市	6店舗	恵庭市	1店舗
千歳市	2店舗	函館市	8店舗	根室市	1店舗	福島町	1店舗
小樽市	2店舗	北斗市	1店舗	釧路町	1店舗	羽幌町	1店舗
余市町	1店舗	苫小牧市	4店舗	中標津町	1店舗	知内町	1店舗
倶知安町	1店舗	伊達市	1店舗	北見市	3店舗	大樹町	1店舗
岩見沢市	2店舗	木古内町	1店舗	網走市	1店舗	遠別町	1店舗
美瑛市	1店舗	幕別町	1店舗	遠軽町	2店舗	東神楽町	1店舗
夕張市	1店舗	むかわ町	1店舗	美幌町	1店舗	増毛町	1店舗
旭川市	6店舗	白老町	1店舗	帯広市	2店舗		
深川市	1店舗	新ひだか町	1店舗	室蘭市	2店舗		

コープ宅配システムトドックセンター

43センター9デポ(2026年3月20日現在)

移動販売車

97台(全道137市町村)

生産工場

江別生鮮加工センター

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

コープの家族葬ホール43式場

提携葬儀社82社

2025年度の新設

店舗	2025年5月	ましけ店
	2025年6月	のっぽろ店
	2025年8月	とっとり店
	2025年10月	ひがしかぐら店

関係会社

株式会社エネコープ	さくら食品株式会社
株式会社トドック電力	株式会社コープフレエ
コープフーズ株式会社	株式会社コープメディア
北海道はまなす食品株式会社	クレードル興農株式会社
北海道ロジサービス株式会社	ミーツ株式会社
マテハンエンジニアリング株式会社	株式会社アイアイター
株式会社M・G建築	株式会社ウィルキャリアー
株式会社大雪水資源保全センター	株式会社ロジエンス北海道
株式会社コープトラベル	株式会社デリバリー
デュアルカナム株式会社	株式会社オリエンタルフーズ
コープトレーディング株式会社	株式会社アグリテック真狩
コープ協同保険株式会社	株式会社コスモジャパン
株式会社コープ・パートナーズ	有限会社F-CARGO
株式会社中央スーパー	森谷食品株式会社
株式会社札幌駅立売商会	株式会社奥場商店
シーズ協同不動産株式会社	株式会社アクセル
株式会社兼子	有限会社伊藤商店
有限会社光電社	有限会社七飯ガスナカガワ